KAWAI

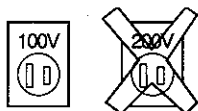
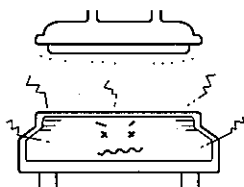
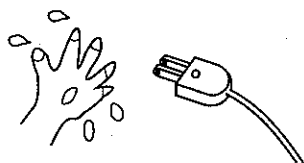
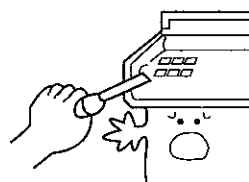
DIGITAL PIANO（デジタル ピアノ）

KSP5/KSP20

取扱説明書

応用編

使用上の注意

・電源について
電源は必ず家庭用100Vのコンセントをご使用ください。誤って100V以上の電源を使用しますと大変危険ですので、よくお確かめください。

・雑音について
モーターやネオンサイン、蛍光灯などが近くにありますと雑音の原因となりますので、本体の設置位置を変えてください。

・電源プラグ、コードの取り扱い
電源プラグをぬれた手で触ったりすると感電する恐れがありますので、ご注意ください。
また、踏みつけたり、足でひっかけたりすると断線やショートの原因となりますのでご注意ください。

・故障などの注意
内部を開けて部品を取り外したり、改造したりすることは大変危険ですので絶対にやめてください。故障したと思われたときは、お求めの販売店、もしくはお近くのカワイまでご連絡ください。

・使用後のご注意
使用された後は、必ず電源を切ってください。
電源を入れたままにしておくと思わぬトラブルの原因となります。
また、長時間ご使用にならない場合は、プラグをコンセントから抜いておいてください。

・お手入れのご注意
アルコールやシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対に使わないでください。
外装のお手入れは、中性洗剤の入った水を多少含ませた柔らかな布をお使いください。
鍵盤のお手入れは、水を含ませた柔らかな布をお使いください。

・バックアップ用バッテリーについて
データバックアップ用の内部バッテリーに寿命がくると、電源オン時に、シーケンサーの録音内容やレジストレーション・メモリーの内容が消えてしまいます。バッテリーは6〜7年で交換してください。
（お求めの販売店、もしくはお近くのカワイサービスセンターまでご連絡ください。）

ごあいさつ

このたびはカワイデジタルピアノKSP5 / KSP20をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

カワイKSP5 / KSP20は、最新のエレクトロニクス技術と、カワイが長年に渡って培った楽器作りのノウハウから生まれた画期的な電子ピアノです。
128種類の多彩な音色、幅広いジャンルに対応する64種類のリズム、鍵盤で和音を押さえるだけでベースやコードの自動演奏をするオート・オーケストラ機能などで本格的な演奏を楽しむことができます。
この電子ピアノの取扱説明書は基本編、応用編、コード進行表の3部構成になっています。

基本編…………この電子ピアノを初めてお使いになられる方のために、主な機能をわかりやすく説明しています。

応用編…………この電子ピアノの全ての機能をくわしく説明しています。基本編をマスターされた方に便利です。

コード進行表…自動コード進行機能を使う時に使用します。音色リストやコードフォーム表も入っています。

KSP5 / KSP20の特長

- リアルな128音色
  ピアノをはじめ、世界中のありとあらゆる楽器音・効果音を128音色用意しました。さらにドラム / パーカッションとして256種類の音色を鍵盤を使って演奏することができます。
- 世界中のジャンルを集めた本格派64リズム / 自動伴奏パターン
  民族音楽から最新の流行音楽まで、64種類のリズム / 自動伴奏パターンを用意しました。
  各地の一流ミュージシャンが作成した本場のリズムをバックに、演奏することができます。
- 音楽性の高い自動伴奏機能（オート・オーケストラ）

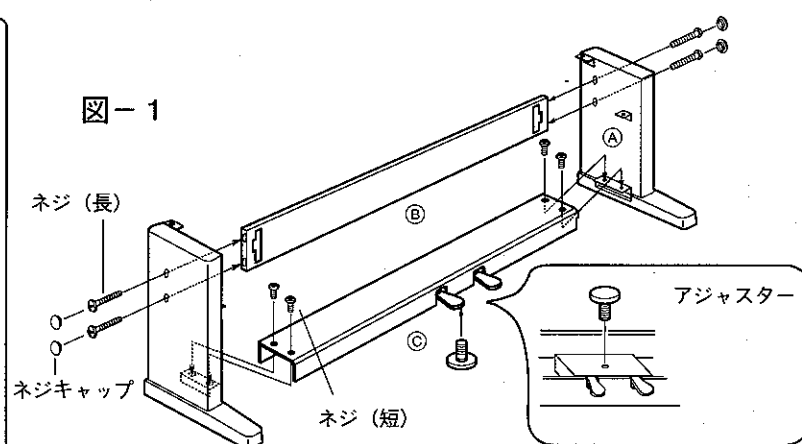
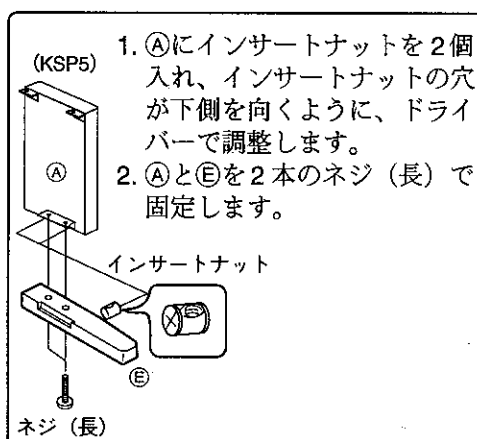
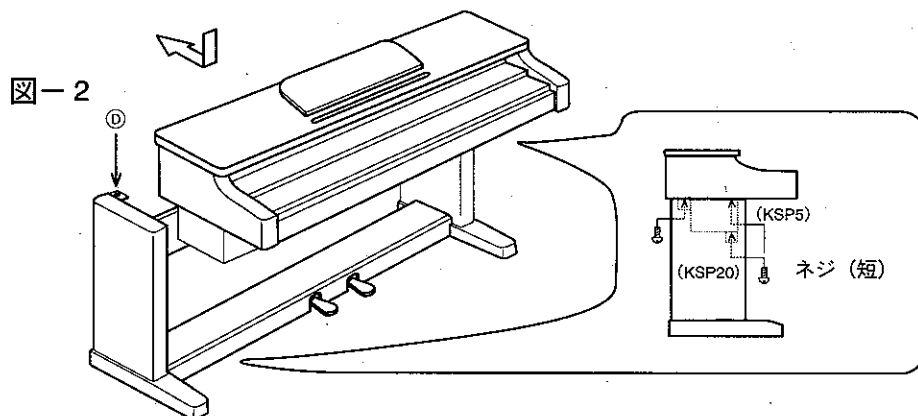
  コード進行時に伴奏がスムーズにつながる新システムを採用、機械的ではないより人間的で自然なバックバンドがあなたの演奏をサポートします。
- 指1本だけで本格的な演奏が楽しめる自動コード進行機能（オート・コード・プログレッション）
  リズム / 自動伴奏にマッチしたコード進行で自動的に曲が流れます。
  あなたはそれに合せて指1本でメロディーを弾くだけで本格的な演奏を楽しむことができます。
- リズムに合った音色やパネルセッティングがワンタッチで呼びだせるワン・ツー・プレイ機能
  リズムを選ぶだけで、それにふさわしい音色やパネルセッティングが呼び出されます。さらに、自動コード進行機能とあわせて使えば最高のセッティングで簡単に演奏することができます。
- 好みのパネルセッティングを記憶できるレジストレーション・メモリー
  音色の切り換え、リズムのテンポ・デュアル / スプリット設定など、演奏に必要なセッティングを4つのボタンに記憶することができます。
- 演奏を簡単に記憶できるシーケンサー機能
  あなたの演奏を録音・再生できるシーケンサー機能を使えば、1曲をパート別に録音したり、右手、左手別に録音することができます。ピアノの練習などにも最適なパートナーです。
- GM対応音源
  この電子ピアノは16セクションのマルチティンバーGM対応音源として使用することができます。
  外部シーケンサーを接続すればGM対応の曲データを鳴らすことができます。

目　次

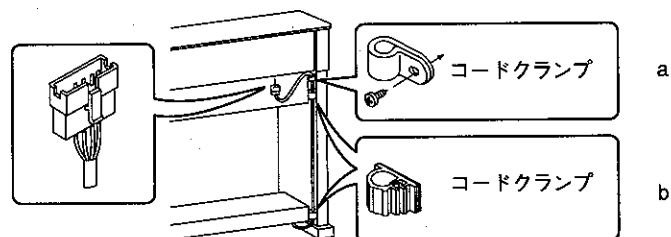
組み立て方

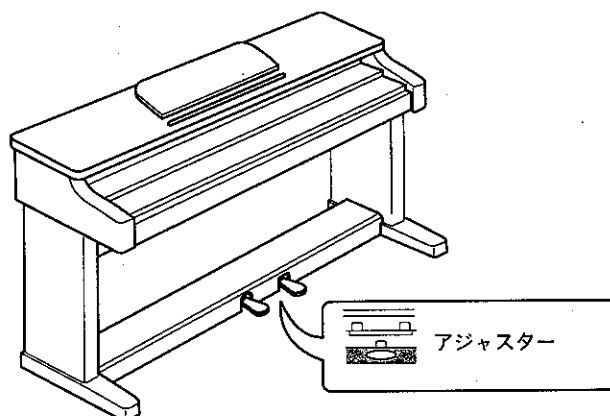
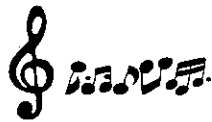
・部品がすべてそろっていることを確認されてから組み立ててください。
・分解する時は、この逆の手順で分解してください。

■付属品

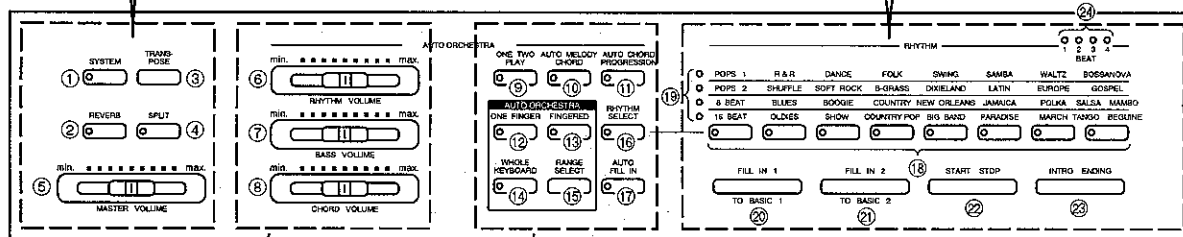
・側板Ⓐ	2 枚	（・インサートナット（KSP5 のみ）	4 個）
・背板Ⓑ	1 枚	・ネジ（長）	4 本（KSP5は 8 本）
・ペダル土台Ⓒ	1 枚	・ネジ（短）	8 本
（・妻土台Ⓔ（KSP5 のみ）	2 枚）	・アジャスター	1 個
		・ネジキャップ	4 個

1. Ⓒに裏からアジャスター（高さ調節ネジ）を1cmぐらいはめこみます。（図－1）
2. ⒶとⒸを4本のネジ（短）で固定します。（図－1）
3. Ⓑの金具のある面を手前に向けて、ⒶとⒷを4本のネジ（長）で固定します。（図－1）

4. 本体をスタンドに静かにのせます。
   真上から見て、本体の後ろにⒹの金具が全部見えるくらい、本体を前方にのせます。このとき、本体の後ろを支持している手を、側板と本体の間ではさまないように注意してください。（図－2）
5. スタンドを足で固定して、本体が傾いて落ちないように一方の手で前部を支えながら本体を後にスライドさせると、本体のフックがⒹの金具に引っ掛かります。（図－2）
6. 本体とスタンドを4本のネジ（短）で固定します。（図－2）
   まずネジを軽くしめて、4本のネジがすべてまっすぐ入るように本体の位置を調節してから、きちんとネジをしめるようにしてください。

★注意：　必ず本体とスタンドをネジで固定してください。固定しないと、本体がスタンドから落下する場合があり、大変危険です。

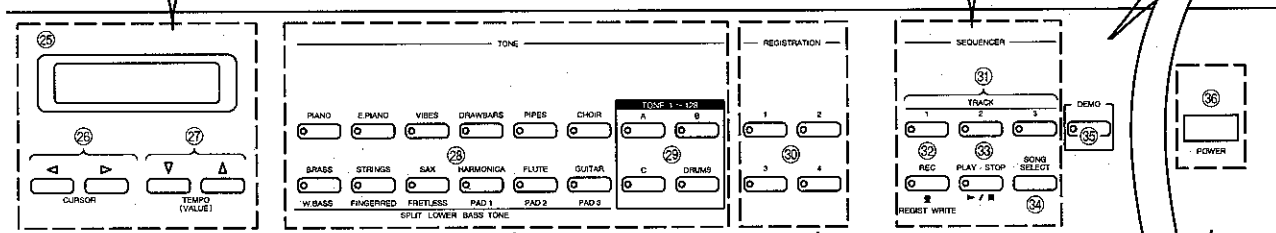
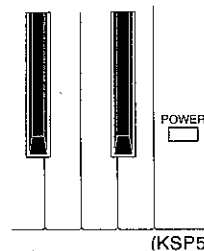
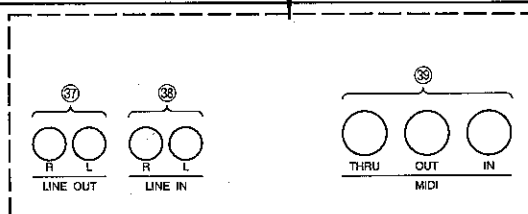
図－3

7. ©から出ているペダル接続コードを、端子の突起部を手前にして本体のペダル端子に差し込み、a, bのクランプでとめます。（図－3）（aクランプは、ネジをはずしてからはめてください。）

図－4
組み立て完成図

8. ©の裏にはめたアジャスターを、床にぴったり付くまで回してペダル土台を補強します。（図－4）

各部の名称とはたらき

①SYSTEM（システム）ボタン（☞33ページ）
タッチカーブやペダル、MIDI等の設定をします。
②REVERB(リバーブ）ボタン（☞13ページ）
音に残響をつけます。
③TRANSPOSE（トランスポーズ）ボタン
（☞28ページ）
音程を半音単位で移調します。
④SPLIT（スプリット）ボタン（☞11ページ）
鍵盤を右半分、左半分で別々の音で演奏する時に使います。
⑤MASTER VOLUME（マスターボリューム）レバー
電子ピアノ全体の音量を調節します。

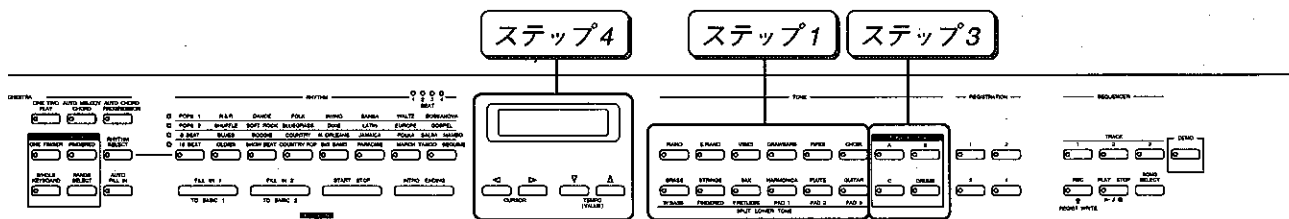
⑱リズムボタン（☞15ページ）
演奏するリズムを選択します。
⑲リズムランプ（☞15ページ）
選んだリズム名の列を表示します。
⑳FILL IN 1（フィル・イン・1）ボタン（☞16, 20ページ）
㉑FILL IN 2（フィル・イン・2）ボタン（☞16, 20ページ）
リズムや自動伴奏のフィルイン・パターンが演奏されます。
㉒START/STOP（スタート/ストップ）ボタン（☞16ページ）
このボタンを押すとリズムがスタートし、もう1度押すとストップします。
㉓INTRO/ENDING（イントロ／エンディング）ボタン（☞16ページ）
リズムがストップしている時はイントロパターンから演奏が開始されます。
リズムが演奏中の時はエンディングパターンが演奏され、リズムがストップします。
㉔BEAT（ビート）ランプ
演奏中のリズムのテンポに合わせ点灯します。

⑥RHYTHM VOLUME
（リズムボリューム）
自動伴奏のリズムのボリュームを調節します。
⑦BASS VOLUME
（ベースボリューム）
自動伴奏のベースのボリュームを調節します。
⑧CHORD VOLUME
（コードボリューム）
自動伴奏のコードのボリュームを調節します。

⑨ONE TWO PLAY（ワン・ツー・プレイ）ボタン（☞25ページ）
リズムに合った音色などが自動的に選ばれます。
⑩AUTO MELODY CHORD（オート・メロディー・コード）ボタン（☞26ページ）
単音で弾いたメロディーに和音を重ねます。
⑪AUTO CHORD PROGRESSION（オート・コード・プログレッション）ボタン
（☞23ページ）
リズムに合ったコード進行で自動伴奏をします。
⑫⑬⑭ONE FINGER（ワン・フィンガー）, FINGERED（フィンガード）
WHOLE KEYBOARD（ホール・キーボード）ボタン（☞17ページ）
自動伴奏を演奏する時に使います。
⑮RANGE SELECT（レンジ・セレクト）ボタン（☞22ページ）
自動伴奏のコードパートの一部の音域を設定します。
⑯RHYTHM SELECT（リズム・セレクト）ボタン（☞15ページ）
パネルに書いてあるリズムのバリエーションリズムを選択します。
⑰AUTO FILL IN（オート・フィル・イン）ボタン（☞27ページ）
4小節ごとに自動的にフィル・イン・パターンを演奏します。

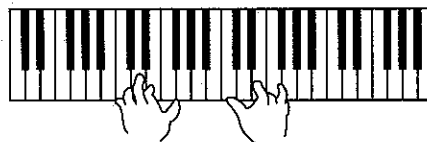
㉕ディスプレイ（画面）
リズム・音色の名称や各モードの設定値を表示します。
㉖CURSOR（カーソル）ボタン
（☞9ページ）
画面中のカーソル（横棒）の位置を変えます。
㉗TEMPO/VALUE（テンポ/バリュー）ボタン（☞9ページ）
テンポや音色番号など、画面中でカーソルで示された数値などを変えます。
㉛TRACK（トラック）ボタン（☞49, 56ページ）
左手・右手などのパート別や、音色別に録音・再生を行なう時にトラックを選択します。
㉜REC/REGIST WRITE（レック/レジスト・ライト）ボタン
（☞29, 50ページ）
録音する時や、レジストボタンにいろんな設定を記憶する時に使います。
㉝PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタン（☞51, 52ページ）
曲の再生や停止をします。
㉞SONG SELECT（ソング・セレクト）ボタン（☞50ページ）
シーケンサー機能を使う時に押します。
㉟DEMO（デモ）
ボタン
（☞31ページ）
デモンストレーションソングを演奏します。
TONE
PIANO
E.PIANO
VIBES
DRAWBARS
PIPES
CHOIR
TONE 1～128
A
B
BRASS
STRINGS
SAX
HARMONICA
FLUTE
GUITAR
C
DRUMS
W.BASS
FINGERED
FRETLESS
PAD 1
PAD 2
PAD 3
SPLIT LOWER BASS TONE
CURSOR
TEMPO (VALUE)
REGISTRATION
SEQUENCER
TRACK
REC
PLAY・STOP
SONG SELECT
REGIST WRITE
DEMO
POWER
(KSP20)
㉘音色選択ボタン（☞7, 8ページ）
音色を選択します。
㉙音色選択ボタン（☞7, 8ページ）
音色を選択します。これらのボタンの音色は変更することができます。
㉚レジストレーションボタン
（☞29ページ）
音色、リズムやボリュームなどの状態の組み合わせを記憶し、ワンタッチで呼び出せます。
㊱POWER（パワー）
スイッチ
電源をON/OFFします。
POWER
(KSP5)
㊲LINE OUT（ラインアウト）端子
本機の音を他の外部機器（アンプ、ステレオなど）に出力します。
㊳LINE IN（ラインイン）端子
外部機器（ステレオ、CDプレーヤーなど）からの音の出力を本機のスピーカーで鳴らします。
㊴MIDI（ミディ）端子
MIDI規格に対応している他の楽器などに接続する端子です。
R L
LINE OUT
R L
LINE IN
THRU
OUT
IN
MIDI

リアパネル

1 音色を選ぶ

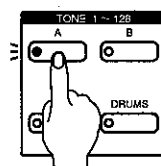
この電子ピアノには128の音色と7つのドラムキットが内蔵されています。お好きな音色で演奏を楽しんで下さい。

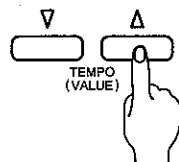
ステップ4　ステップ1　ステップ3

ステップ1　パネル上で好きな音色ボタンを押します。

例えばFLUTEのボタンを押すとボタンのランプが点灯しフルートの音色が選ばれます。

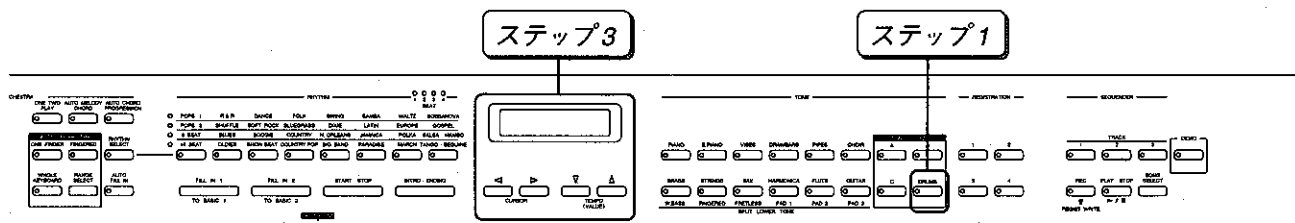
ステップ2　鍵盤を弾くと美しいフルートの音が鳴ります。

パネルに書いてある以外の音色を演奏するには

ステップ3　A,B,Cのいずれかのボタンを押します。

例えばAのボタンを押すとトロンボーンの音色が選ばれ画面に表示されます。

```
058 Trombone
 POPS 1     ♩=120
```

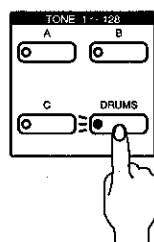
ステップ4　画面を見ながらTEMPO（VALUE）ボタンを数回押して音色を変えます。
ボタンを押したままにすると数字が10単位で変化します。
001から128まで、好きな音色を選ぶことができます。

```
066 AltoSax
 POPS 1     ♩=120
```

（128音色の一覧表は「コード進行表」のウラ表紙を参照して下さい。）

このように選ばれた音色はそのボタンに記憶されます。
一度記憶された音色は電源を切っても消えません。
好みの音色をA,B,Cそれぞれのボタンで選んでおくと便利です。

ドラムの音を鳴らすには

ステップ1

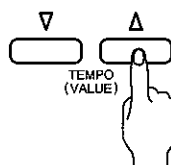
DRUMS（ドラムス）のボタンを押します。

7種類のドラムキットの中からスタンダードキットが選ばれ画面に表示されます。

DR1 STANDARD
POPS 1 ♩=120

ステップ2

鍵盤を弾くと1音1音別々にいろいろなドラムやパーカッションの音が鳴ります。

ステップ3

ドラムキットを変えるにはTEMPO（VALUE）ボタンを数回押してドラムキットを変えます。

DR2 ROOM
POPS 1 ♩=120

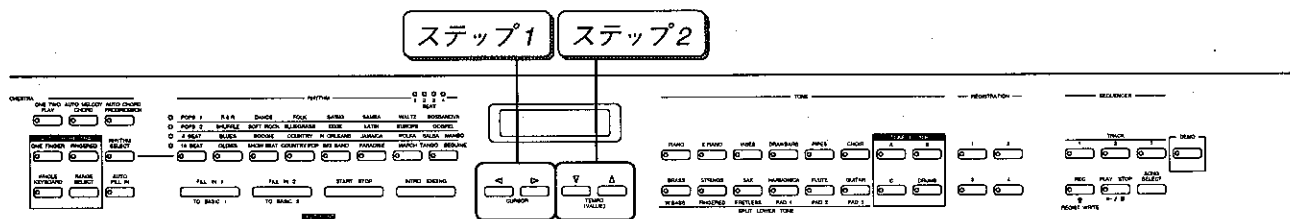
STANDARD	………	一般的なドラムの音が鳴ります。
ROOM	………	個性的なタムタムの音が鳴ります。
POWER	………	力強いドラムの音が鳴ります。
ELECTRO	………	エレクトリックドラムの音が鳴ります。
BOB	………	ハウスミュージックに使われる人工的なドラムの音が鳴ります。
JAZZ	………	ジャズドラムの音が鳴ります。
ORCHSTR	………	オーケストラに使うティンパニ等の音が鳴ります。

（ドラムキットの鍵盤ごとの音の配置は「コード進行表」の 42 ページを参照して下さい。）

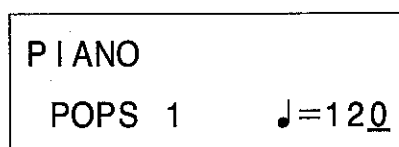
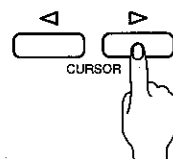
また、このように選ばれたドラムキットは、DRUMSボタンに記憶されます。
好みのドラムキットを選んでおくと便利です。

・DRUMSを選んでいる時は、スプリットボタン（☞ 11ページ）は動作しません。
・DRUMSを選んでいる時は、自動伴奏（☞ 17ページ）は動作しません。

2 テンポや画面上の数字を変更する

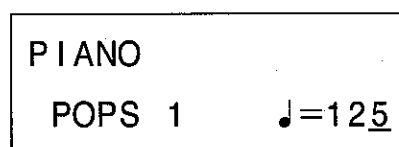
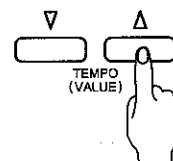
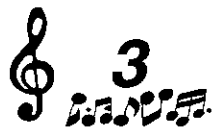
画面に表示されているテンポや、音色、いろいろな設定時の数値などを変更します。

テンポを変更する

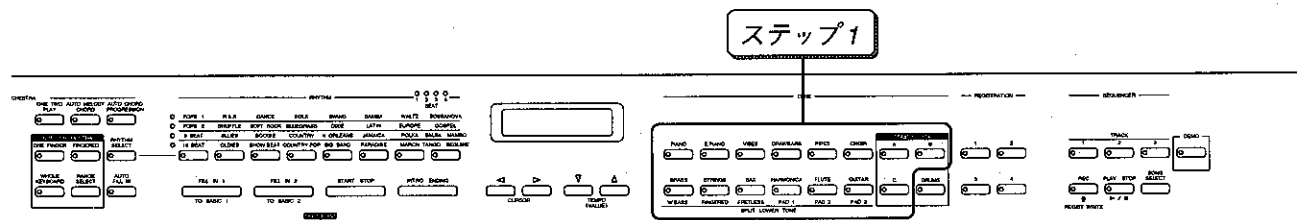
ステップ1　CURSOR（カーソル）ボタンを数回押し、カーソルをテンポの下にもってきます。
（画面によってはカーソルが動かない場合があります。）

PIANO
POPS 1　♩=120

カーソル

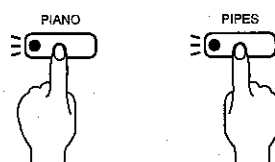
ステップ2　TEMPO（VALUE）（テンポ・バリュー）ボタンを数回押し、テンポを変更します。

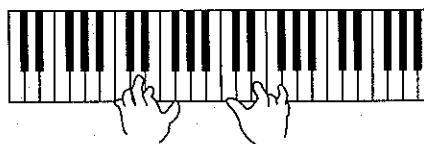
このときこのボタンを押しつづけると数字が10ずつ変化します。

PIANO
POPS 1　♩=125

このように画面上の数字や設定値を変更したいときはCURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動させ、TEMPO（VALUE）（テンポ・バリュー）ボタンで数字や設定値を変更します。
（画面によってはカーソルの位置が固定されていたり、数字や設定値が固定されている場合があります。）

3 音色を2つ重ねる（デュアル機能）

2つの音色を重ねることにより厚みのある音で演奏することができます。これをデュアル機能といいます。

ステップ1

ステップ1　好きな音色のボタンを2つ同時に押します。

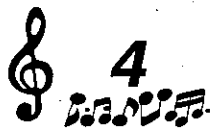
この場合ピアノとパイプオルガンの音が重なり、画面には右のように表示されます。

```
PIANO +PIPES
 POPS 1      ♩=120
```

ステップ2　鍵盤を弾くと2つの音色が重なって鳴ります。

★　このデュアル機能はDRUMSボタンを除くすべての音色ボタンで設定できます。
A,B,Cボタンを利用すると128コすべての音色を自由に組み合せることができます。
A,B,Cボタンを利用する時、そのボタンに記憶されている音色は番号表示になります。
例えばPIANOボタンとAボタンを同時に押すと下の表示になります。

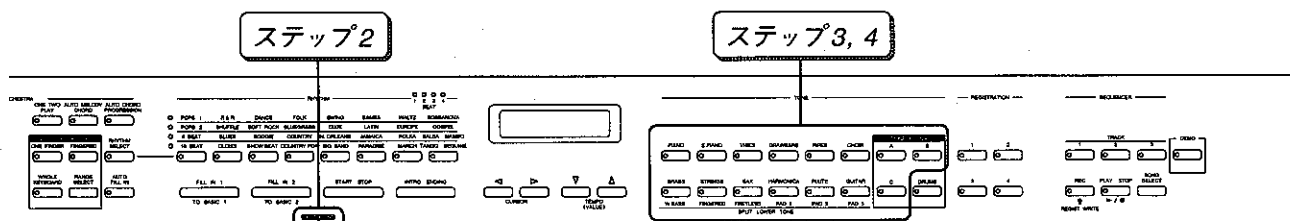
```
PIANO +GM058
 POPS 1      ♩=120
```

→ピアノと058番トロンボーンのデュアル

CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを上の画面のように動かし、
TEMPO(VALUE)（テンポ・バリュー）ボタンを押すとAボタンの音色内容が変わります。
いろんな音色を聞き比べながら、お好みの組み合せをさがす時に便利です。

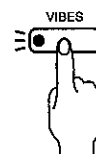
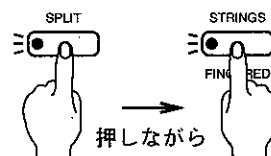
・2つの音色の音量バランスを変えることもできます。（☞36ページ）

4 右手と左手を別々の音色で演奏する

鍵盤を左手用（ロワー鍵盤）と右手用（アッパー鍵盤）に分けて、それぞれ別々の音色で演奏することができます（スプリット機能）。右手でメロディーを弾きながら、左手で別の音色でのコード演奏やベース演奏が可能になります。

ステップ2　ステップ3, 4

ステップ1　SPLIT（スプリット）ボタンを押します。
ボタンのランプが点灯します。
（もう一度押すとランプが消えて通常の状態にもどります。）

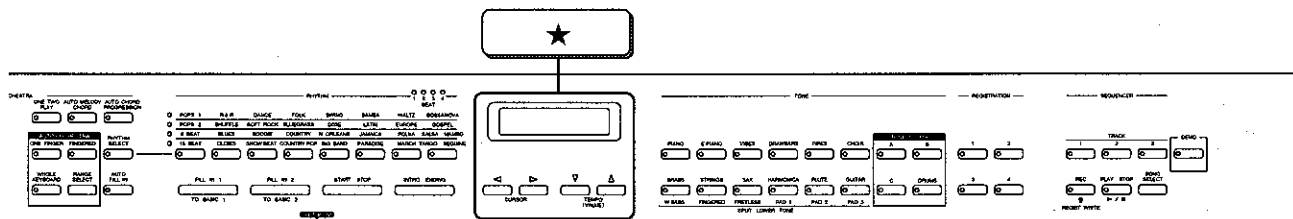
ステップ2　SPLIT POINT の位置（G3とG#3の間）をさかい目に、左右で別々の音色で演奏できます。

★現在選ばれている音色がアッパー側になります。また電源オンの後、最初にスプリットボタンを押すと、ロワー側の音色して、初期設定されているW.BASSが選ばれます。(スプリット・ロワー・トーン)

ステップ3　アッパー側の音色を変えるには選びたい音色ボタンを押します。

ステップ4　ロワー側の音色を変えるにはSPLIT（スプリット）ボタンを押しながら選びたい音色ボタンを押します。

このとき音色ボタンの下段の6つのボタンは、下側に表示されている音色になります。

上側に表示されている音色ボタンを選びたいときはSPLIT（スプリット）ボタンを押しながら、その音色ボタンを2回押します。

(スプリット機能)

★

・スプリット・オンのときは、DRUMS（ドラムス）の音色は選べません。
・ロワー側の音色は次の8音色を除いて、通常より1オクターブ高い音程で鳴ります。

033	WoodBass	=	W.BASS
034	FingerBass	=	FINGERED
035	PickBass		
036	Fretless	=	FRETLESS
037	SlapBass1		
038	SlapBass2		
039	SynBass1		
040	SynBass2		

★このスプリットはDRUMSボタンを除くすべての音色ボタンで設定できます。
A,B,Cボタンを利用すると128コすべての音色を自由に組み合せることができます。
A,B,Cボタンを利用する時、そのボタンに記憶されている音色は番号表示になります。
例えばPIANOボタンとAボタンのスプリットは下の表示になります。

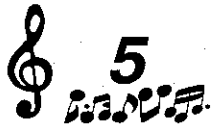
```
PIANO /GM058
 POPS 1      ♩=120
```

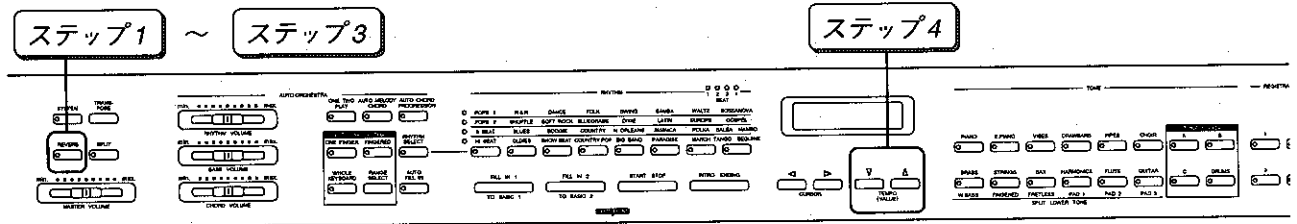
→ロワー側にピアノ
アッパー側に 058 番トロンボーン

このときCURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを下の画面のように動かし

```
PIANO1 /GM058
 POPS 1      ♩=120
```

TEMPO(VALUE)（テンポ・バリュー）ボタンを押すとAボタンの音色内容が変ります。いろんな音色を聞き比べながら、お好みの組み合せをさがす時に便利です。

・スプリットポイントを変更することもできます。（☞37 ページ）
・ロワー側とアッパー側の音量バランスを調節することもできます。（☞36 ページ）

5 リバーブ（残響）をかける

あなたの演奏にリバーブ（残響）効果をかけることができます。
リバーブをかけると音の響きが豊かになります。

ステップ1 リバーブボタンのランプが点灯しているとリバーブ効果がかかっています。
（本体のパワーオン直後はリバーブ効果がかかっています。）

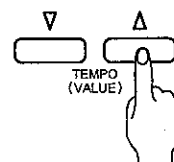
REVERB

ステップ2 リバーブボタンを押すとランプが消え、リバーブ効果がなくなります。

ステップ3 もう一度リバーブボタンを押すとリバーブボタンのランプが点灯し、リバーブ効果がかかります。そして数秒間次の画面になります（約3秒後には通常の画面にもどります。）

REVERB TYPE
= LARGE ROOM

ステップ4　このときTEMPO(VALUE)ボタンを数回押すとリバーブの種類（タイプ）を変えることができます。

REVERB TYPE
= HALL

リバーブの種類（タイプ）とその効果は次のとおりです。

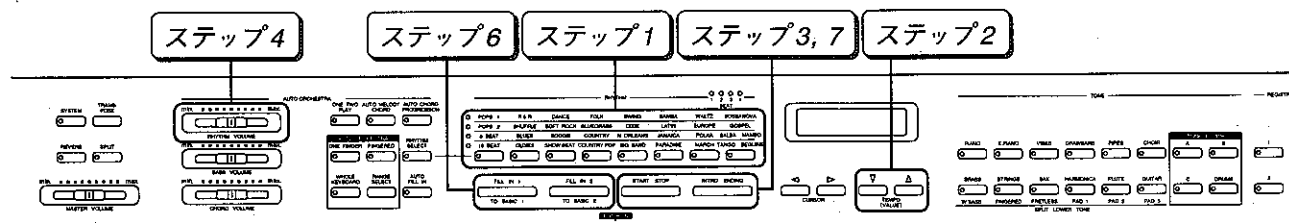
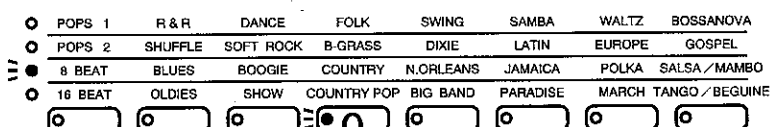
SMALL ROOM …… 響きやすい部屋で弾いた時の響きが得られます。
LARGE ROOM …… SMALL ROOMより少し深い響きが得られます。
HALL …… 小さめのコンサートホールでの響きが得られます。
CHURCH …… 教会や大きめのコンサートホールでの響きが得られます。
COSMIC …… 宇宙空間をイメージした響きが得られます。
DELAY …… こだまがかえるような響きが得られます。

リバーブ・タイプを画面上で切り換えた後、約2秒後に新しいタイプのリバーブ効果がかかります。

6 リズムを鳴らす

ステップ1

リズム選択ボタンで好きなリズムを選びます。

POPS 1	R&R	DANCE	FOLK	SWING	SAMBA	WALTZ	BOSSANOVA
POPS 2	SHUFFLE	SOFT ROCK	B-GRASS	DIXIE	LATIN	EUROPE	GOSPEL
8 BEAT	BLUES	BOOGIE	COUNTRY	N.ORLEANS	JAMAICA	POLKA	SALSA／MAMBO
16 BEAT	OLDIES	SHOW	COUNTRY POP	BIG BAND	PARADISE	MARCH	TANGO／BEGUINE

例えば「COUNTRY」を選びたい時は、「COUNTRY」の下のスイッチを数回押し、ランプを右上図のように点灯させます。画面にリズム名が表示されます。

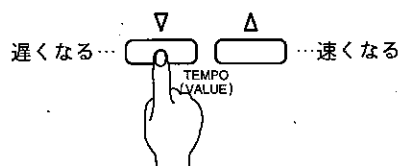
PIANO
COUNTRY ♩=120

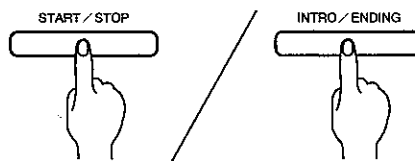
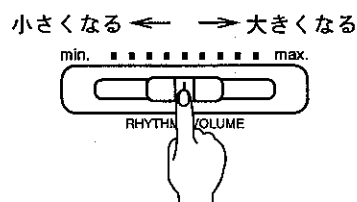
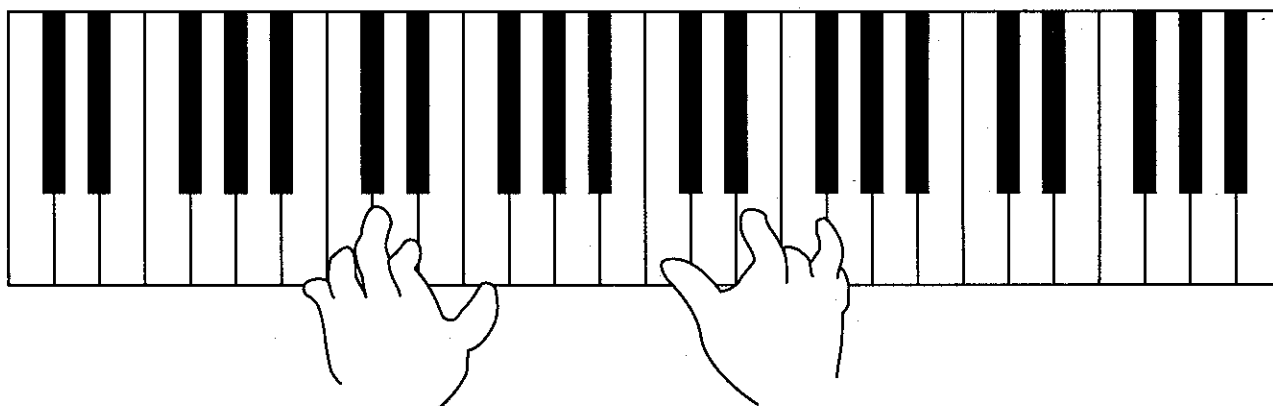
また同じ「COUNTRY」を選んでいても、RHYTHM SELECT（リズムセレクト）ボタンを押すと、もう1つのCOUNTRYのパターンが選ばれます。（バリエーション・パターン）

さらにもう1度このボタンを押すとランプが消え、元のCOUNTRYのパターンにもどります。

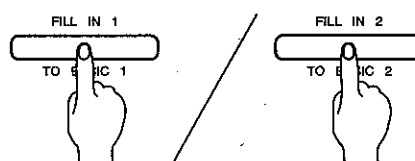
このように各リズム名ごとに2種類のパターンが選べます。

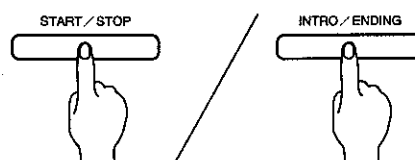
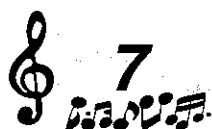
ステップ2

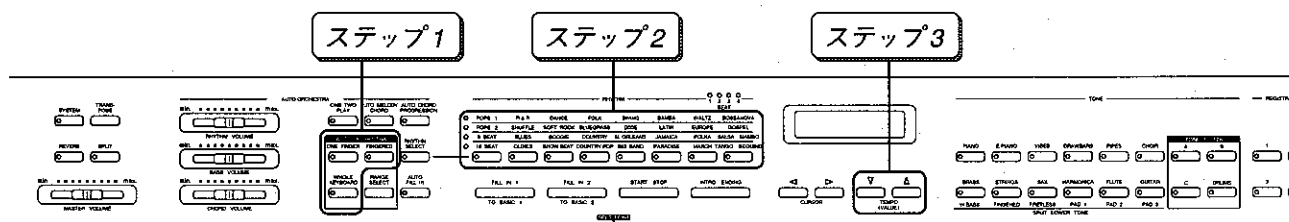
リズムの速さ（テンポ）を調節します。TEMPO（VALUE）ボタンでテンポを調節します。

PIANO
COUNTRY ♩=120

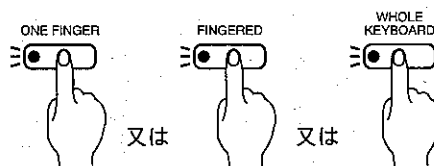
ステップ3 リズムをスタートさせます。
○すぐにスタートさせる場合
START / STOPボタンを押します。
○イントロからスタートさせる場合
INTRO / ENDINGボタンを押します。

ステップ4 リズムの音量を調節します。
RHYTHM VOLUMEでリズムの音量を調節します。

ステップ5 リズムに合せて弾きます。

ステップ6 リズムに変化（フィルイン）を入れる時は

FILL IN 1を押すと、フィルインが入った後、基本パターン1（BASIC1）になります。

FILL IN 2を押すと、フィルインが入った後、基本パターン2（BASIC2）になります。

この電子ピアノは、1つのリズムに対し2つの基本パターンを持っています。
リズムや自動伴奏をスタートさせた直後やフィルイン1の直後は基本パターン1（BASIC1）が演奏されます。
フィルイン2の直後は基本パターン2（BASIC2）が演奏されます。曲のサビの部分などには基本パターン2（BASIC2）がおすすめです。

ステップ7 リズムを止める。
○すぐに止める場合
START / STOPボタンを押します。
○エンディングパターンで止める場合
INTRO / ENDINGボタンを押します。

7 自動伴奏を使って演奏する

オート・オーケストラ（自動伴奏）を使えば、左手でコード（和音）を指定するだけで、リズムに合せた伴奏パターンが自動的に演奏されます。

ステップ1

ONE FINGERボタンもしくは
FINGEREDボタンもしくは
WHOLE KEYBOARDボタンを押します。

○ ONE FINGERボタンを押した場合

左手で、コードを押さえなくても指1本で自動伴奏させることができます。
例えばメジャーコードなら指1本で、その他のコードなら指2〜3本で鍵盤を押さえるだけでOKです。

○ FINGEREDボタンを押した場合

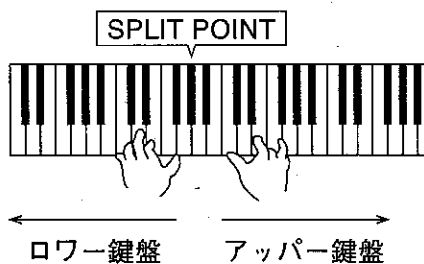
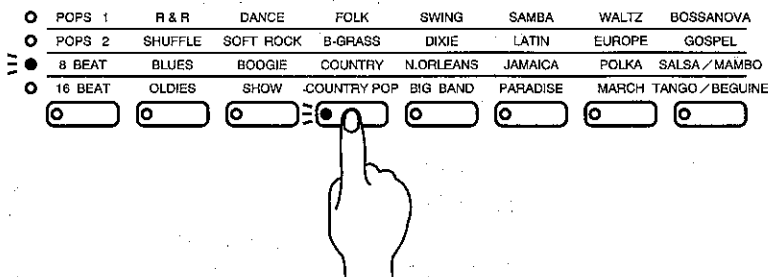
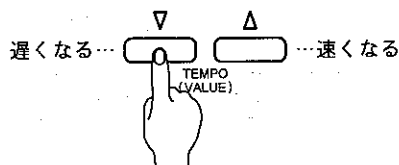
左手で普通のコード（和音）を押さえて自動伴奏させます。

○ WHOLE KEYBOARDボタンを押した場合

どの鍵盤上でも、コード（和音）を押さえれば自動伴奏されます。さらにロワー鍵盤内で弾かれた鍵盤の最低音でベースパターンが変化します。

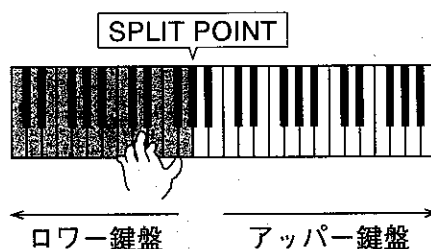
ステップ2

リズム選択ボタンで好きなリズムを選びます。

POPS 1	R & R	DANCE	FOLK	SWING	SAMBA	WALTZ	BOSSANOVA
POPS 2	SHUFFLE	SOFT ROCK	B-GRASS	DIXIE	LATIN	EUROPE	GOSPEL
8 BEAT	BLUES	BOOGIE	COUNTRY	N.ORLEANS	JAMAICA	POLKA	SALSA／MAMBO
16 BEAT	OLDIES	SHOW	COUNTRY POP	BIG BAND	PARADISE	MARCH	TANGO／BEGUINE

ステップ3　リズムの速さ（テンポ）を調節します。
TEMPO（VALUE）ボタンでテンポを調節します。

```
PIANO
 COUNTRY      ♩=110
```

ステップ4　伴奏をスタートします。

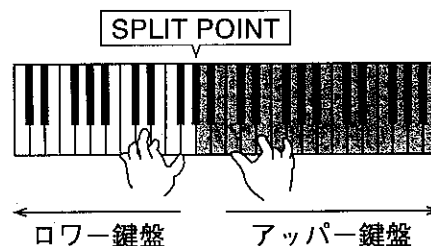
左手でコードを押さえると、自動的に伴奏がスタートします。（左手は右図のように SPLIT POINT という表示より左側の鍵盤を押さえて下さい）

注意
パネルで DRUM 音色を選んでいる時はスタートしません。

```
PIANO
 F#m          ♩=110
```

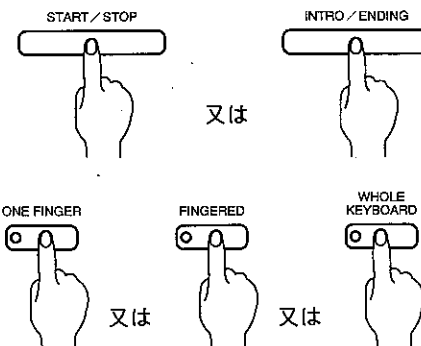
↑押さえたコードが表示されます

コードの押さえ方については、コード進行表の44ページを参照して下さい。

ステップ5　伴奏にあわせて右手でメロディーを弾きます。

右手は上図のように SPLIT POINT という表示より右側の鍵盤を弾いて下さい。

POINT
WHOLE KEYBOARDボタンで自動演奏される場合、どの鍵盤でコードを押さえても自動演奏がスタートします。またどの鍵盤もその時選ばれている音色で発音します。

ステップ6　伴奏をストップします。
START / STOPボタン又はINTRO / ENDINGボタンを押します。

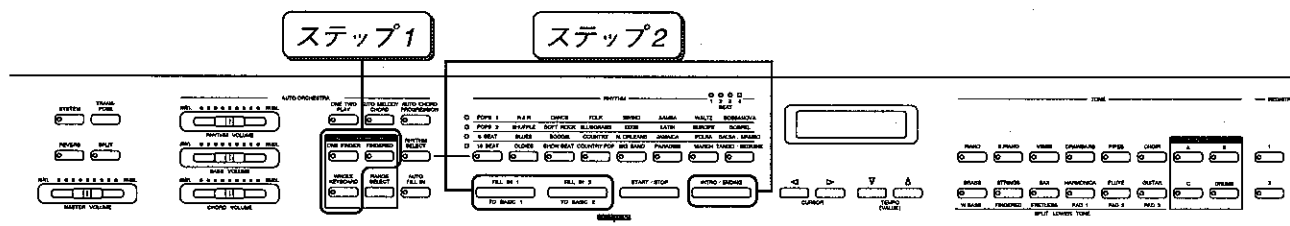
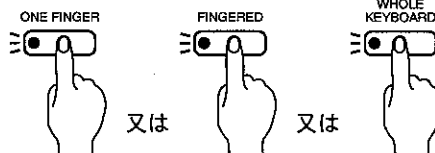
また、点灯しているオートオーケストラのボタンを押してランプを消すと自動伴奏の状態が解除されます。

・SPLIT POINT は自由に設定できます。（☞ 37 ページ）

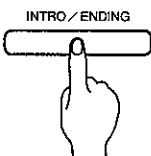
自動伴奏について

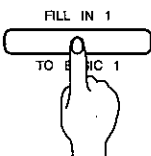
オートオーケストラ（自動伴奏）の3つのボタンの違いは次のとおりです。

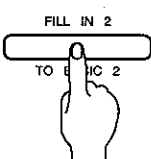
	ONE FINGER	FINGERED	WHOLE KEYBOARD
	初心者向きです。	オルガンやジャズ・ピアノに慣れているプレーヤー向きです。	コンテンポラリーやピアノに慣れているプレーヤー向きです。
コード検出鍵盤	ロワー鍵盤	ロワー鍵盤	すべての鍵盤
ベース検出鍵盤	ロワー鍵盤	ロワー鍵盤	すべての鍵盤 ただし、ロワー鍵盤でベースのルート（根音）を検出します。
検出条件	1 音以上押された場合にコード検出されます。	3 音以上押された場合にコード検出されます。	3 音以上押された場合にコード検出されます。
鍵盤音の発生	ロワー鍵盤を弾いても鍵盤の音は出ません。（スプリット時を除く。）	ロワー鍵盤を弾いても鍵盤の音は出ません。（スプリット時を除く。）	すべての鍵盤で音が出ます。

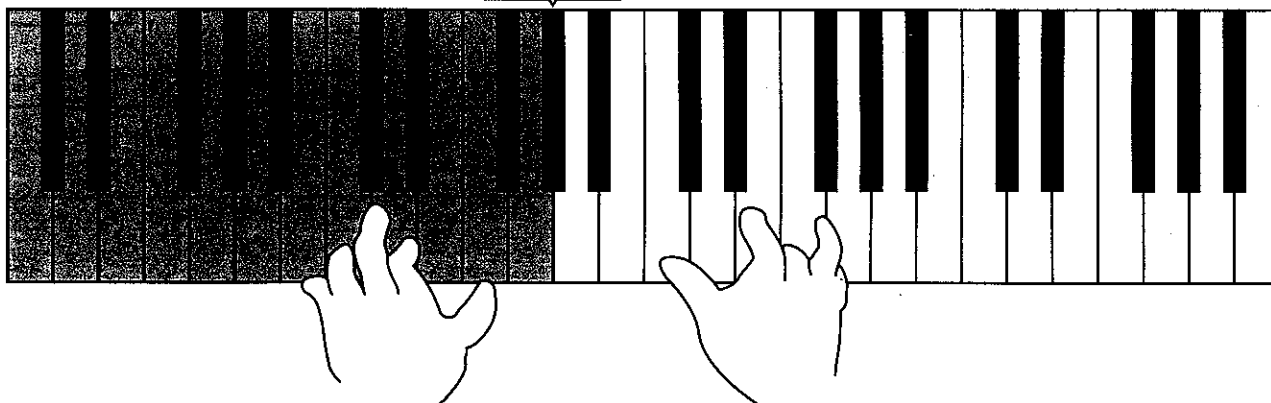
イントロ / フィルインから自動伴奏をスタートさせる場合

自動伴奏をイントロやフィルインからスタートさせると、より自然な演奏が楽しめます。

ステップ1　オートオーケストラ（自動伴奏）の3つのボタンのいずれかを押します。

ステップ2　スタートしたい形を選びます。

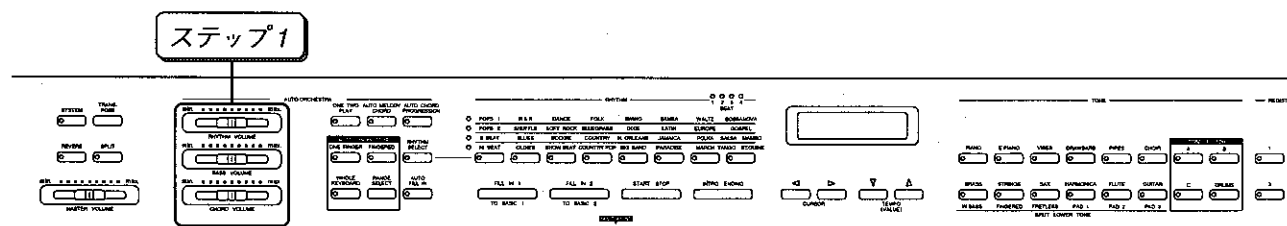
○イントロからスタートしたい場合、まずINTRO / ENDINGボタンを押します。

PLAY CHORD
→ INTRO START

○フィルイン1からスタートした場合、まずFILL IN 1ボタンを押します。

PLAY CHORD
→ FILL1 START

○フィルイン2からスタートした場合、まずFILL IN 2ボタンを押します。

PLAY CHORD
→ FILL2 START

ステップ3

コード（和音）を押さえて自動伴奏をスタートさせます。
メジャーコードを押さえるとメジャーのイントロがスタートします。
マイナーコードを押さえるとマイナーのイントロがスタートします。

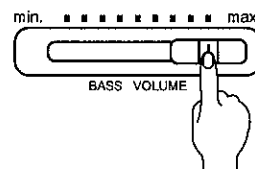
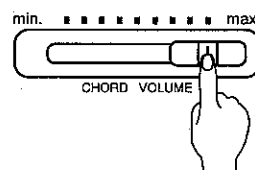
自動伴奏の音量を調節する

自動伴奏の各パートの音量を調節することができます。

ステップ1

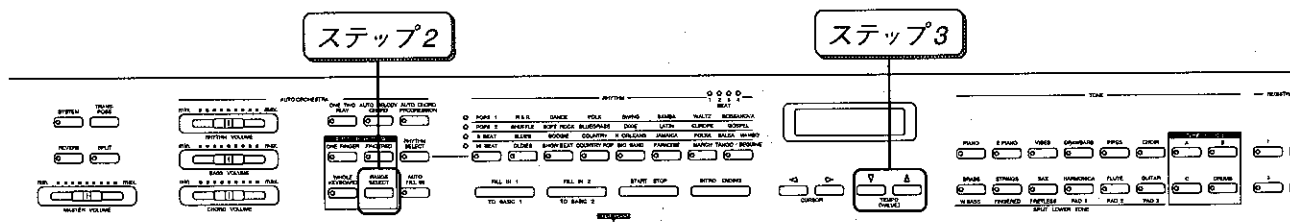
ステップ1　自動伴奏中に各パートのボリュームつまみを動かします。

○RHYTHM VOLUMEでドラム / パーカッション音の音量を調節します。

○BASS VOLUMEでベース音の音量を調節します。

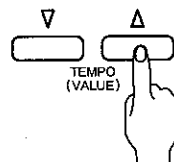
小さくなる ← → 大きくなる
min.
max.
BASS VOLUME

○CHORD VOLUMEでピアノ等のバッキング音の音量を調節します。

・いちばん左にすると音が出なくなります。
・マスターボリュームが小さく設定されていると各ボリュームを動かしても音が大きくなりません。

自動伴奏（バッキング・パート）の音域を変える

オートオーケストラ（自動伴奏）はコードチェンジ時でもバッキングパートの一部が、ある音域内でなめらかに移動するようなっています。ここではその音域を設定します。

ステップ1　自動伴奏をスタートさせます。
（☞ 17ページ）

ステップ2　RANGE SELECT（レンジ・セレクト）ボタンを押します。

RANGE SELECT
= NORMAL

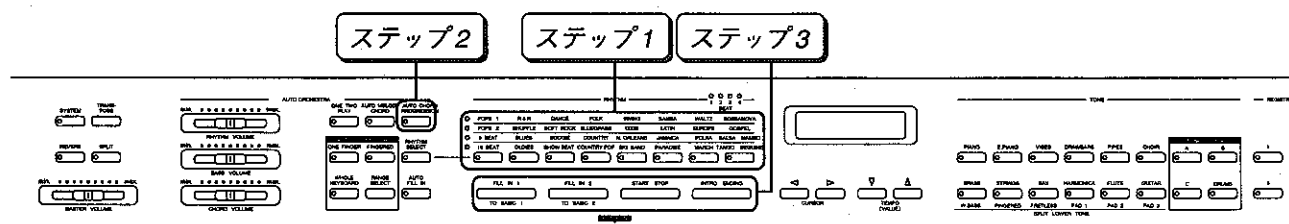
ステップ3　TEMPO（VALUE）（テンポ（バリュー））ボタンを数回押して設定します。

- NORMAL …… バッキングパートが通常の音域で演奏されます。
- HIGH …… バッキングパートの一部がやや高めの音域で演奏されます。
- LOW …… バッキングパートの一部がやや低めの音域で演奏されます。

ステップ4　数秒後に元の画面にもどります。

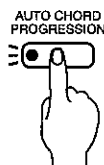
> リズムやコードの種類によっては、設定を変えても音域の変わらない場合がありますが、
> コード進行の流れの中では確実に設定された音域が保たれます。
> 各設定のもとに、いろんなコード進行を試して実感して下さい。

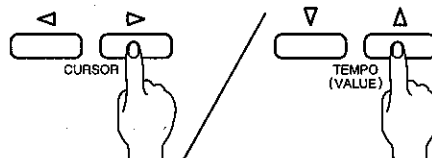
・RANGE SELECTはリズム／自動伴奏が走っていなくても設定することができます。

8 自動コード進行を楽しむ

この電子ピアノは、64種類のリズムパターンそれぞれに合ったコード進行を持っています。
自動伴奏に合わせて自動的にコードが変わってゆくので、それに合わせて自由に演奏することができます。付属のコード進行表を見ながらアドリブ演奏を楽しんで下さい。

ステップ1 リズムを選びます。
（POPS1を選んだとします。）

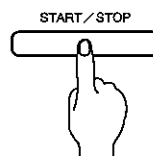
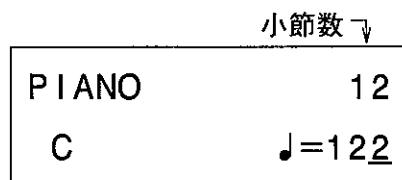
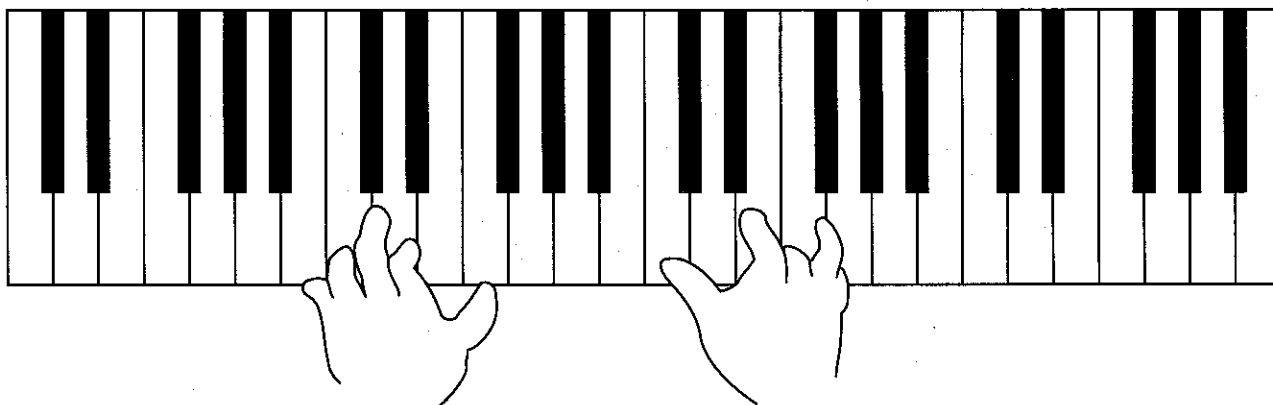
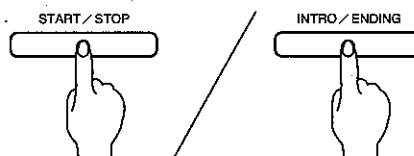
PIANO
POPS 1 ♩=120

ステップ2 AUTO CHORD PROGRESSION（オート・コード・プログレッション）ボタンを押します。

このリズム（POPS 1）に合ったコード進行（PRG（プログラム）の1番）、キー（C）、テンポ（122）が表示されます。

コード進行（PRG）、キー、テンポを変更したい時は、CURSOR（カーソル）ボタンで変更したい場所にカーソルを移動させ、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンで変更して下さい。

コード進行（PRG）については付属のコード進行表を参照してください。

・オート・コード・プログレッションをオンにすると、オート・フィル・イン機能は解除されます。
・リズム演奏、自動伴奏中にオート・コード・プログレッションをオンにすることはできません。

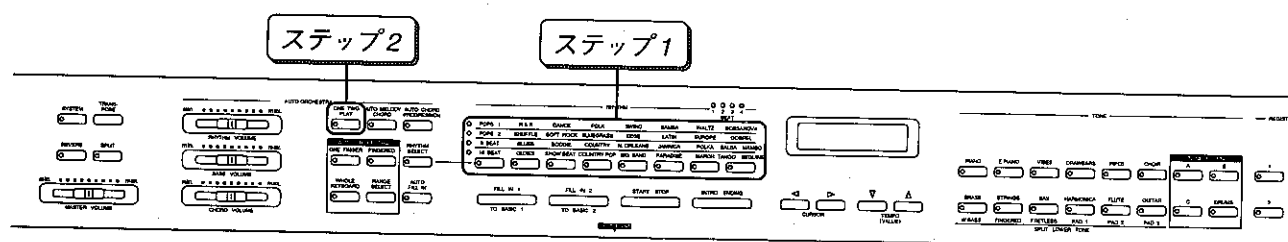
(オート・コード・プログレッション)

ステップ3　START / STOPボタンを押します。

自動伴奏がイントロからスタートし、自動的にコードが進行していきます。イントロの後から、コードと小節数が画面に表示されます。

ステップ4　自動伴奏にあわせて演奏します。

ステップ5　自動伴奏は自動的にエンディングパターンで終りますが、途中で止めたい時はSTART / STOPボタンを押します。
また、エンディングパターンで強制的に終りたいときはINTRO / ENDINGボタンを押します。

・付属のコード進行表を見ながら演奏を楽しんで下さい。
・自動コード進行中は、FILL INボタンによるFILL INを入れることはできません。
・自動コード進行時はAUTO FILL IN機能は動作しません。
・自動コード進行中にリズムを変えても、コード進行PRG、キー、テンポは変わらず演奏します。

・ワン・ツー・プレイ機能（☞ 25ページ）を同時に使えば、最適な音色、リバーブ等の状態で演奏が楽しめます。

・自動コード進行は INTRO / ENDING, FILL IN1, FILL IN2 ボタンを押してもスタートします。

9 リズムに合った音色を呼びだす（ワン・ツー・プレイ）

64種類のリズムそれぞれに合ったテンポ、音色、デュアル、リバーブ等を自動的に呼び出します。最適な状態で簡単に自動伴奏が楽しめます。

ステップ1　リズムを選びます。

ステップ2　ONE TWO PLAY（ワン・ツー・プレイ）ボタンを押します。

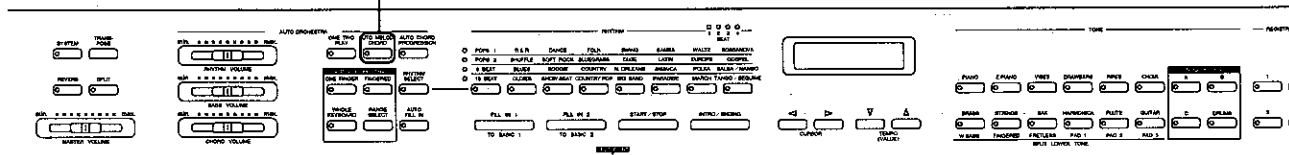
ONE TWO PLAY

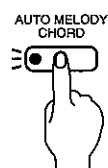
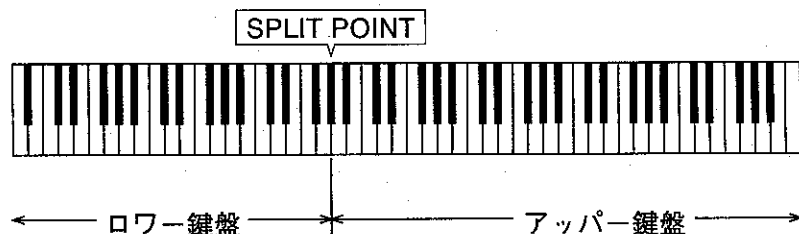
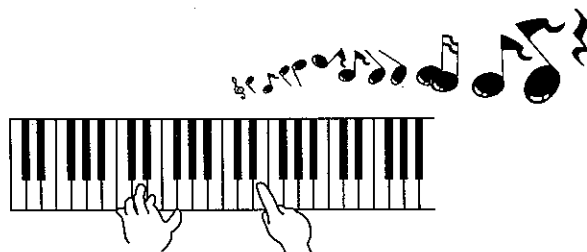
選ばれているリズムにふさわしい音色セッティングが自動的に呼び出されます。

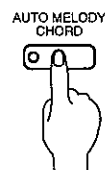
ステップ3　ONE TWO PLAYを解除するときは、もう一度ONE TWO PLAYボタンを押して、ランプを消して下さい。
音色等のパネルセッティングが元にもどります。

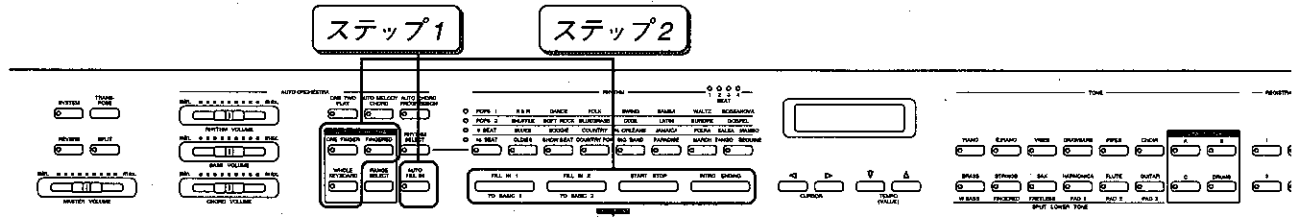
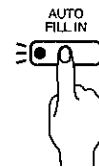
・ONE TWO PLAYボタンを押してランプが点灯しているときに、リズムを変えることもできます。
・ONE TWO PLAYオンのときに、レジストレーション・メモリーを呼びだすことはできません。

10 メロディーに和音を付ける（オート・メロディー・コード）

ロワー鍵盤で押されたコードを、アッパー鍵盤で弾かれている最低音に2音加えます。右手指1本で弾いたメロディーにハーモニーを付けられます。

ステップ1　AUTO MELODY CHORD（オート・メロディー・コード）ボタンを押します。

●鍵盤がアッパーとロワーに分けられます。

●ロワー鍵盤でコードを押さえると、アッパー鍵盤で弾いた音に、和音が重なります。

一本指でメロディーを弾いても、たくさんの指で演奏しているように聞こえます。

ステップ2　オート・メロディー・コードを解除するには.....
AUTO MELODY CHORD（オート・メロディー・コード）ボタンを押します。
ボタンのランプが消灯し、オート・メロディー・コードが解除されます。

11 自動的にフィルインを入れる（オート・フィルイン）

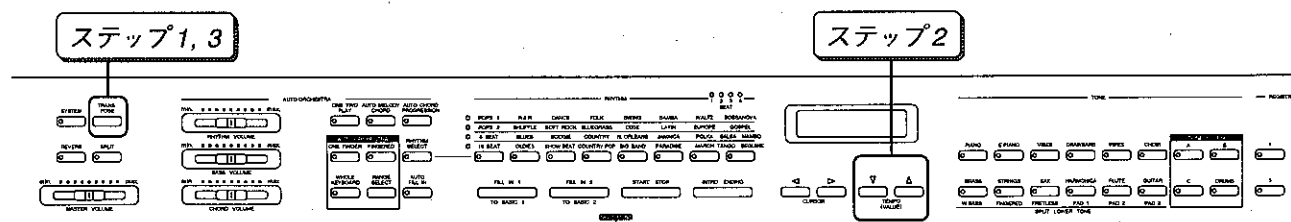
オート・フィル・イン機能で4小節ごとに自動的にフィルインを入れることができます。

ステップ1　ALTO FILL IN（オート・フィル・イン）ボタンを押します。

ステップ2　リズム / 自動伴奏をスタートさせます。
自動的に4小節ごとにフィルインが演奏されます。

基本パターン1（BASIC 1）演奏中にはFILL IN 1が演奏されます。
基本パターン2（BASIC 2）演奏中にはFILL IN 2が演奏されます。

ステップ3　オートフィルインを解除するときはもう一度AUTO FILL INボタンを押してランプを消します。

・オート・コード・プログレッションをオンにすると、オート・フィル・イン機能は解除されます。

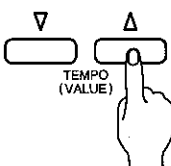
12 演奏を移調（トランスポーズ）させる

この電子ピアノには、シャープやフラットがたくさん付いている曲を弾きやすい調（キー）に移調するトランスポーズ機能があります。
トランスポーズ機能は、音程を半音単位で変化させることができます。

ステップ1

TRANSPOSE（トランスポーズ）ボタンを押します。
トランスポーズ・モードに入ります。
ディスプレイに現在の状態が表示されます。

TRANSPOSE
= 0

ステップ2

TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを押して希望の状態にします。

TRANSPOSE
= + 2

キーが半音ずつ変化するので、この場合は1音分上がっています。「ド」の鍵盤を弾くと「レ」の音が鳴ります。自動伴奏時はコードCを弾くと、コードDの伴奏になります。
画面の中では－12～＋12の範囲で設定できます。

- 鍵盤を弾くと音で確認できます。
- 数秒間TEMPO・VALUEボタンが操作されないと、トランスポーズ・モードが解除されます。
- トランスポーズの設定は、一度電源を切って再度オンにすると、0に戻ります。

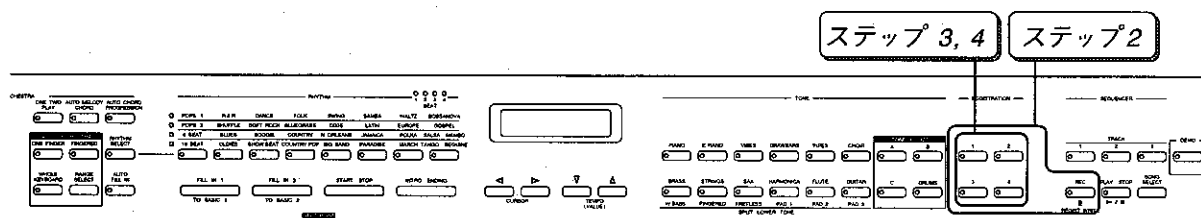
ステップ3

TRANSPOSE（トランスポーズ）ボタンを押すか、数秒そのままだとトランスポーズの設定が完了し、元の画面にもどります。

・MIDI IN信号はトランスポーズされません。

13 パネルの設定を記憶する（レジストレーション

曲の途中で、鍵盤を弾きながら音色やリズムを瞬時に切り替えるのは、難しいことです。
レジストレーション・メモリーを使えば、一度記憶した操作パネルの設定がワンタッチで呼び出せます。
この電子ピアノでは、4つのレジストレーションを記憶できます。

★レジストレーション・メモリーとは、トーンやリズムの選ばれているもの、またそのボリュームなどパネル状態の組み合わせを記憶させる機能です。

ステップ1　音色やリズムのボタン、ボリュームなどをパネル上でセットします。
レジストレーション・メモリーには、下表の内容が記憶されます。
また、リバーブタイプやトランスポーズなどもその設定を記憶できます。

レジストレーション・メモリーに記憶させることができるもの

・トーン

トーン選択、デュアルの設定、スプリットの設定
A, B, C, DRUMSボタンの内容

・リズム

リズムの選択
テンポ

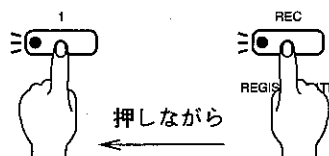
・自動伴奏

ワンフィンガーボタンのオン／オフ、フィンガードボタンのオン／オフ、ホールキーボードボタンのオン／オフ
リズム、ベース、コードの各パートのボリュームレバーの内容
レンジセレクトの設定

・その他

スプリットボタンのオン／オフ、、リバーブボタンのオン／オフ、オードメロディーコードのオン／オフ、、オートフィルインボタンのオン／オフ
リバーブタイプの設定、トランスポーズの設定、デュアル / スプリットバランスの設定、オールGMアサインのオン／オフ、オールGMアサインの各内容、スプリットポイントの設定

ステップ2　REC・REGIST WRITE（レック・レジストライト）ボタンを押しながら希望するレジストレーションボタン（REGISTRATION 1～4）を押します。

右の画面になり、セットしたパネルの状態が記憶されます。

REGIST.WRITE
COMPLETED!

・ソングモード時（ ☞50ページ）にレジストレーションを記憶させることはできません。
・記憶させたレジストレーションメモリーは電源を切っても消えません。
・工場出荷時の状態にもどしたい時はリセット動作をして下さい。
（☞ 32ページ）

記憶したレジストレーションを呼び出すには

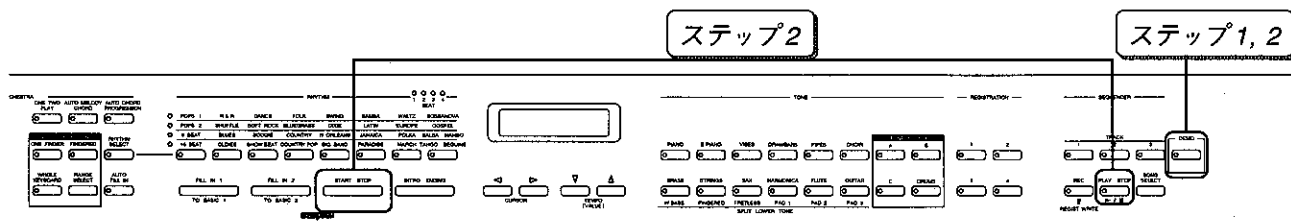
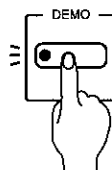
ステップ3　レジストレーション・ボタン（REGISTRATION 1～4）を押します。
その番号に記憶されていたパネルの状態がセットされます。

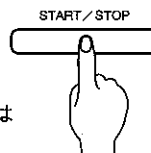
・ボリュームなどのレバーは、値のみがセットされます。レバーの位置は変わりません。
・呼び出した後で、パネルのボタンやレバーの状態を変えることも可能です。

ステップ4　パネルを元の状態にもどすにはランプの点灯しているレジストレーション・ボタンを押します。
点灯していたレジストレーション・ボタンのランプが消灯して、パネルはレジストレーション・ボタンのランプが全て消灯していたときの状態に戻ります。

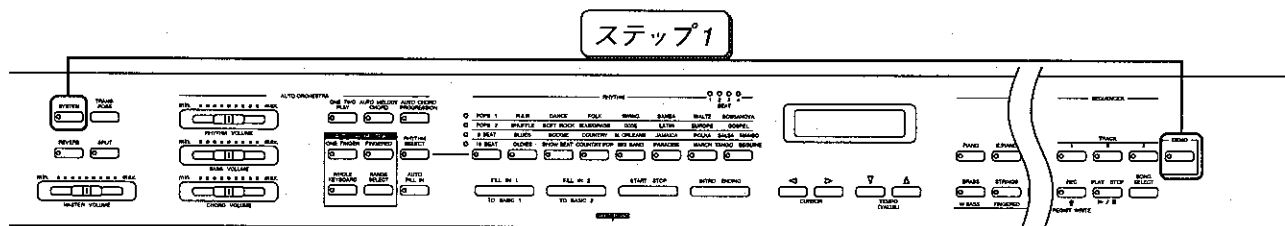
・1～4のレジストレーション・メモリー・ボタンがオンの時、ワン・ツー・プレイ機能を使うことはできません。

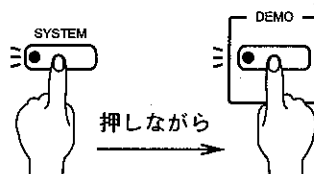
14 デモ演奏を聴く

この電子ピアノにはデモ演奏が用意されています。
デモ演奏を聞いて本機のサウンドを体験して下さい。

ステップ1　デモボタンを押します。
デモ演奏がスタートします。

DEMONSTRATION
Quit by「DEMO」key

ステップ2　デモボタン、START / STOPボタン、PLAY / STOPボタンのいずれかを押すと、デモ演奏がストップします。

・デモ演奏中は鍵盤を弾いても発音しません。

15 リセット

リセット動作をすると、シーケンサー、レジストレーションメモリーなどすべての設定が工場出荷時にもどります。

ステップ1

SYSTEM（システム）ボタンを押しながらDEMO（デモ）ボタンを押します。

画面が右の表示となりすべての設定が工場出荷時のものとなります。

数秒後、画面は元にもどります。

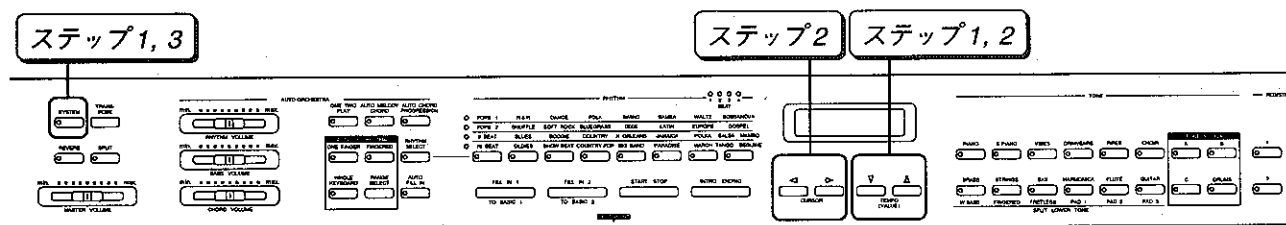
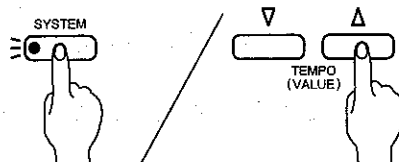
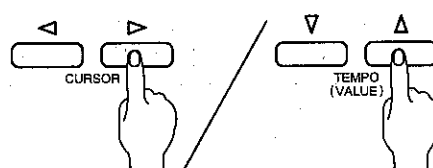
FACTORY RESET
COMPLETED!

- システムモード又はシーケンサー録音中にリセットすることはできません。
- リセット動作を行うと、内部音源部はGMリセットされます。
- 工場出荷時の設定については、47, 63ページを参照して下さい。

16 システム（SYSTEM）の設定

システムモードではこの電子ピアノに関するいろいろな設定ができます。
システムモードでの設定では、システム・チューニングの内容とオールGMアサインのオン時の音色割りあて内容は電源を切っても消えません。その他の設定内容は、一度電源を切ると工場出荷時の設定（☞ 63ページ）にもどります。

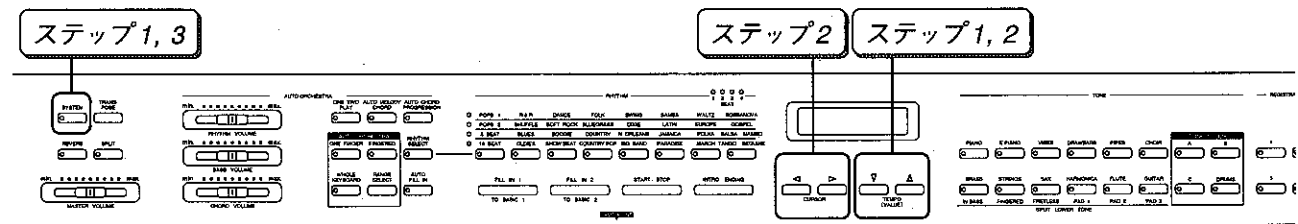
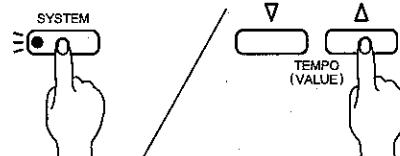
1. タッチ・カーブの設定

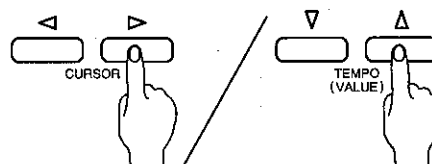
タッチカーブを設定します。軽めのタッチから重いタッチまでお好みのタッチで演奏できます。

ステップ1 SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
1 TOUCH CURVEを選びます。

ステップ2 CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

設定値
- HEAVY2 … 重いタッチカーブです。強く弾くと大きな音が出ます。
- HEAVY1 … 少し重めのタッチカーブです。
- NORMAL … 通常のタッチカーブです。
- LIGHT1 … 少し軽めのタッチカーブです。
- LIGHT2 … 軽いタッチカーブです。お子様の練習用に便利です。

ステップ3 SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

・システムモードでは、鍵盤のMIDI情報は出力されません。

2. レフトペダルの設定

レフトペダルの機能を設定します。

ステップ1　SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
2 LEFT PEDALを選びます。

2 LEFT PEDAL
= SOFT

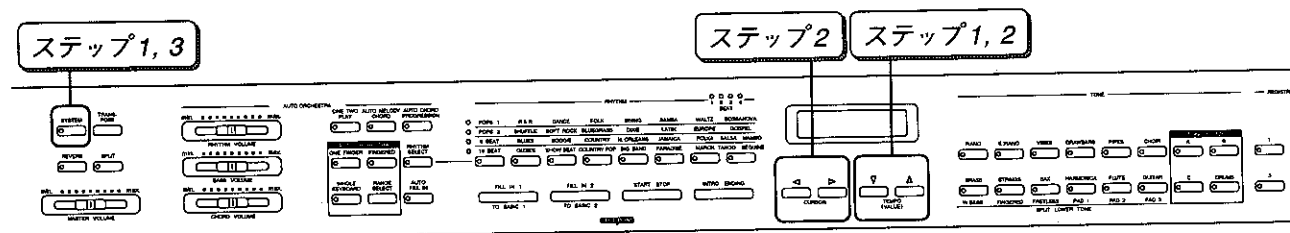
ステップ2　CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

2 LEFT PEDAL
= SOFT

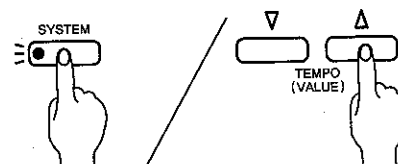
設定値

- SOFT ……………… ペダルがソフト・ペダルとして働きます。踏み込むと音色が柔らかくなり、音量も小さくなります。
- START / STOP …… リズムのスタートやストップがペダルでコントロールできます。
- INTRO / ENDING … リズムが鳴っていないときに、ペダルを踏むと、イントロ・パターンが演奏されてリズムがスタートします。リズムが鳴っているときに、ペダルを踏むとエンディング・パターンの演奏後、リズムが終了します。
- FILL IN 1
- FILL IN 2 ……… リズムが鳴っているときに、ペダルを踏むとフィルイン・パターンが演奏されます。

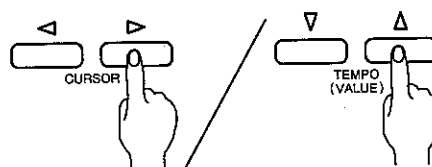
ステップ3　SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

3. ダンパーペダルの設定

ダンパーペダルの機能を設定します。

ステップ1

SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
3 DAMPER PEDALを選びます。

3 DAMPER PEDAL
= LOWER & UPPER

ステップ2

CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

3 DAMPER PEDAL
= LOWER & UPPER

設定値
- LOWER & UPPER（ロワー & アッパー）
  スプリット時のアッパーとロワーの両方にダンパーをかけます。
- LOWER（ロワー）
  スプリット時のロワーのみにダンパーをかけます。
- UPPER（アッパー）
  スプリット時のアッパーのみにダンパーをかけます。

ステップ3

SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

4. デュアル / スプリットバランスの設定

デュアル／スプリット時の音色の音量バランスを調節します。

ステップ1

SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを押して
4 DUAL & SPLITを選びます。

4 DUAL & SPLIT
BALANCE=100:100

ステップ2

CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

4 DUAL & SPLIT
BALANCE=100:100

カーソル移動

・デュアルの場合　=100:100
- パネル音色ボタンの右側又は下側の音色の音量
- パネル音色ボタンの左側又は上側の音色の音量

・スプリットの場合　=100:100
- アッパー鍵盤音色の音量
- ロワー鍵盤音色の音量

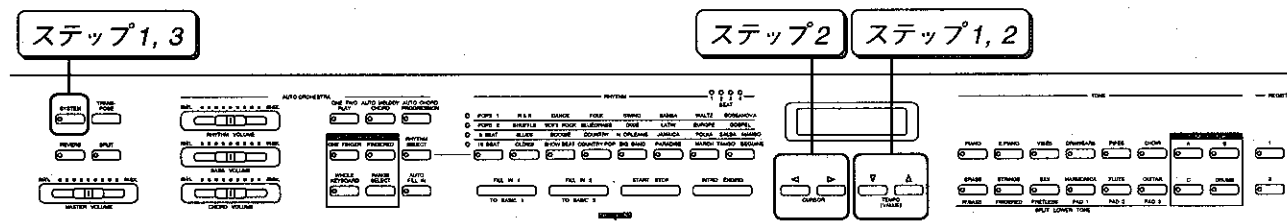
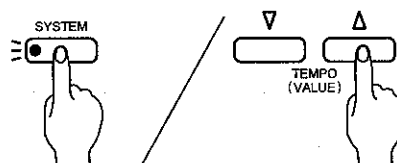
・値は1～100の範囲で変化します。
・マスターボリュームが小さく設定されると、各ボリュームを動かしても音が大きくなりません。

ステップ3

SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります 。

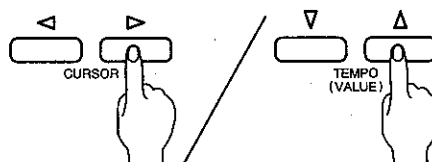
5. スプリット・ポイントの設定

スプリットポイントの設定をします。

ステップ1, 3　　ステップ2　ステップ1, 2

ステップ1　SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
5 SPLIT POINTを選びます。

SYSTEM　TEMPO (VALUE)

5 SPLIT POINT
= G#3

ステップ2　CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

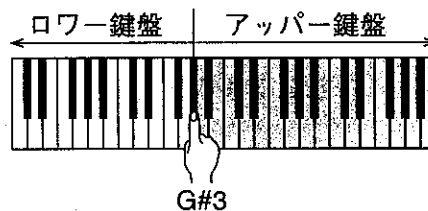
CURSOR　TEMPO (VALUE)

設定値 A_0～C_8（KSP20）
　　　E_1～G_7（KSP5）

5 SPLIT POINT
= G#3

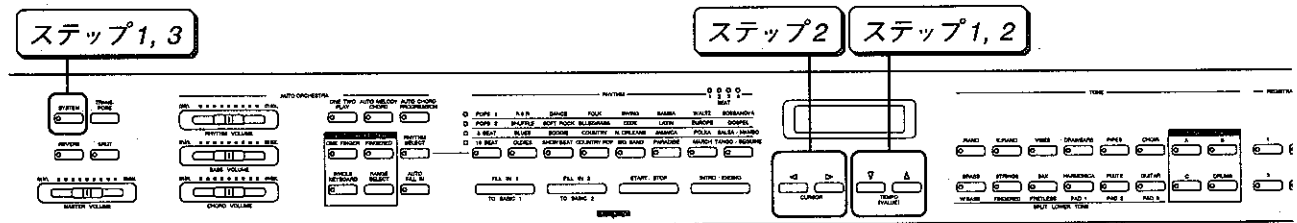
又は希望の鍵盤を押すと、そこがスプリットポイントになります。

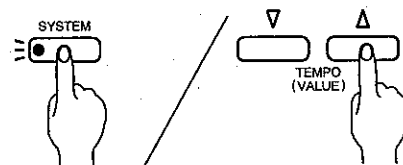
ロワー鍵盤　アッパー鍵盤

G#3

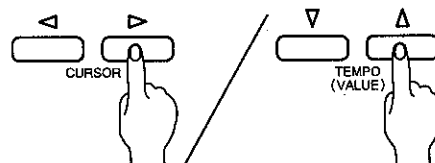
画面表示のキー又は押した鍵盤がアッパー鍵の最低音になります。

ステップ3　SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

6. リバーブ・デプスの設定

リバーブの深さを設定します。

ステップ1

SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
6 Rev.DEPTH SETを選びます。

```
6 Rev.DEPTH SET
HI= 7      LO= 1
```

ステップ2

CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

```
6 Rev.DEPTH SET
HI= 7      LO= 1
```

カーソル移動

ここではHIとLOの2種類のレベルを設定できます。
ここで設定されたHI,LOは次のページのパート別リバーブ設定で使用します。

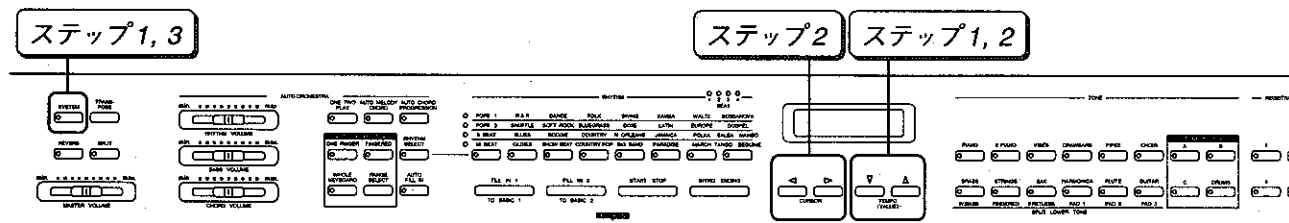
設定値
- 10 ↑ リバーブが深くかかります。
- 〜
- 1 ↓ リバーブが浅くかかります。

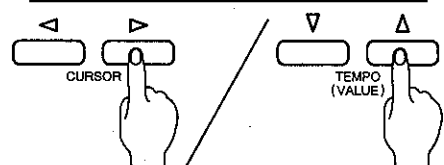
HI,LOの設定の設定はすべてのリバーブ・タイプ（☞13ページ）について共通です。

ステップ3

SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

7. パート別リバーブ・デプスの設定

伴奏・演奏パート別にリバーブの深さをセッティングできます。

ステップ1　SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
7 PARTを選びます。

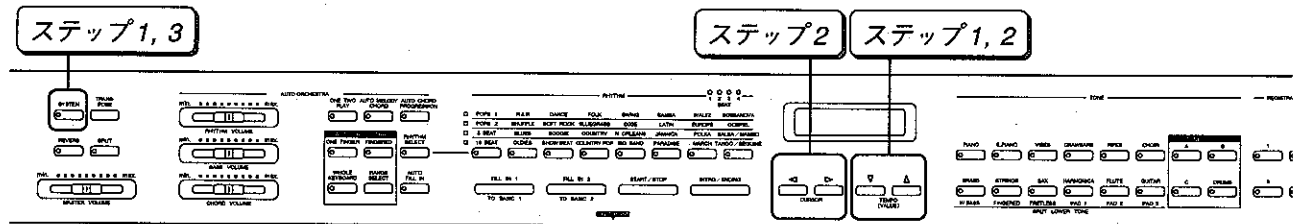
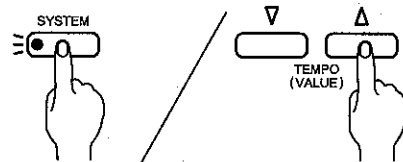
ステップ2　CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

前ページで設定したリバーブの深さHI,LOを各伴奏、演奏パートに割りふります。

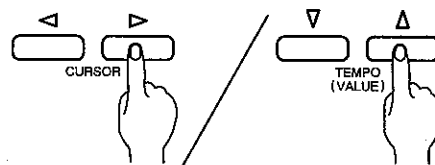
例えば前ページで HI=7, LO=1 に設定すれば、上の画面だと次のようなリバーブセッティングとなります。

パート	設　定	
D（ドラム / パーカッション）	H（HI）	深さ７のリバーブがかかる
B（ベース）	L（LO）	深さ１のリバーブがかかる
C（コード）	H（HI）	深さ７のリバーブがかかる
K（鍵盤音）	H（HI）	深さ７のリバーブがかかる

ステップ3　SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

8.　ローカル・コントロールの設定

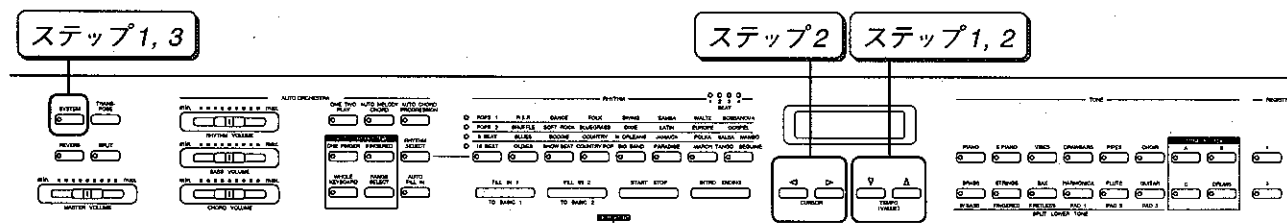
ローカルコントロールの設定をします。鍵盤を弾いたときに音を出すか出さないかを設定します。

ステップ1　SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
8 LOCALを選びます。

8 LOCAL
= ON

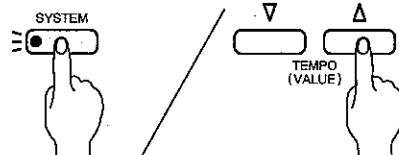
ステップ2　CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

8 LOCAL
= ON

設定値
- ・ON ……………… 鍵盤を弾いたときも、MIDI 情報を受信したときも発音します。
- ・OFF ……………… 鍵盤を弾いたときは音が出ずに、MIDI情報を受信したときのみ発音します。
- ・UPPER OFF … ロワー鍵盤がON、アッパー鍵盤が OFF になります。自動伴奏を本体で鳴らして、右手のメロディーを MIDI 接続した他の音源で鳴らす時に便利です。

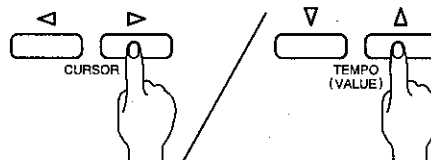
ステップ3　SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

9. システム・チューニングの設定

音程の微調整を行います。他の楽器と音程を合わせるときなどに使用します。

ステップ1

SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
9 SYSTEM TUNEを選びます。

```
9 SYSTEM TUNE
=     0
```

ステップ2

CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

```
9 SYSTEM TUNE
=     0
```

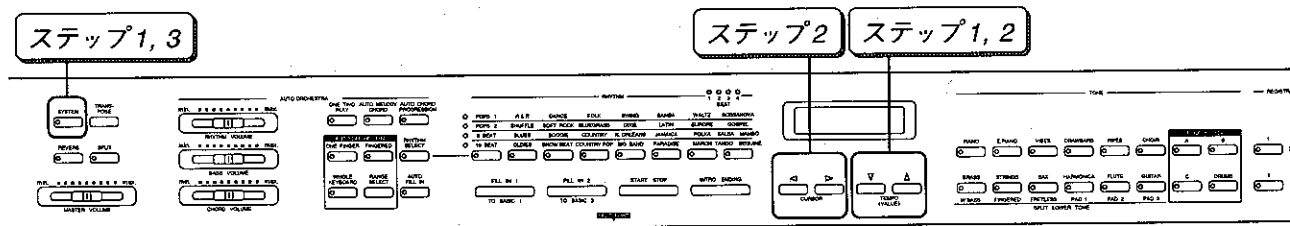
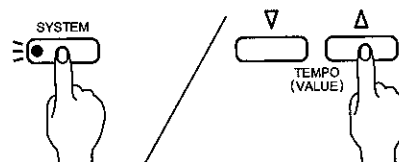
・設定値は－32～＋32です。
　±50セント（100セント＝半音）の範囲で設定できます。

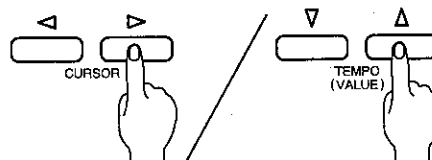
> この値は電源を切っても設定が変わりません。

ステップ3

SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

10. 音律の設定

この電子ピアノは鍵盤で弾いた音をいろいろな音律で鳴らすことができます。

ステップ1　SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
10 TEMPERAMENTを選びます。

10 TEMPERAMENT
TYPE=1　KEY=C

ステップ2　CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

カーソル移動

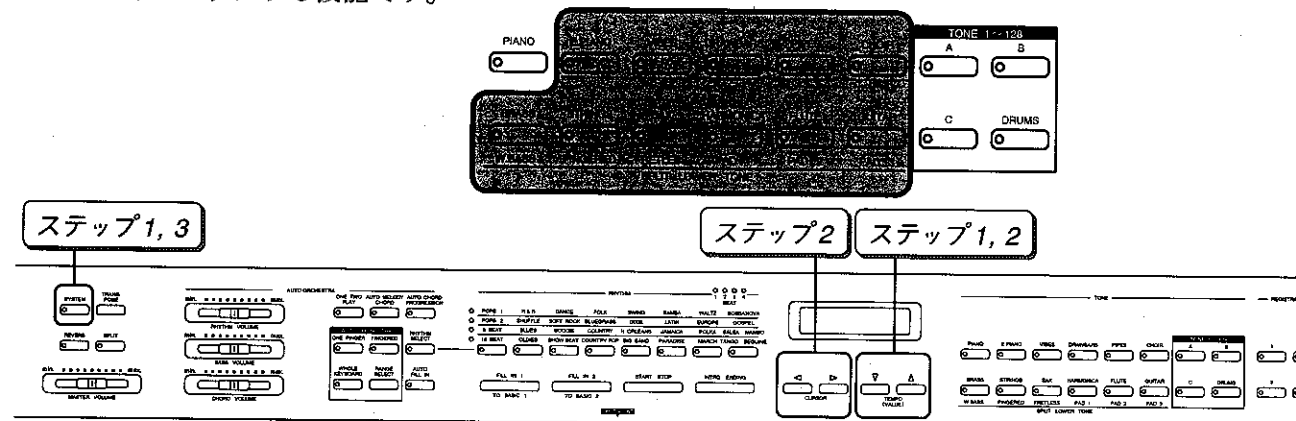
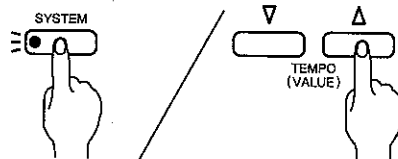
値		各音律の特長
TYPE1	平均律	ピアノの調律法として、最もポピュラーなもので、どのように移調しても和音の響きが変わらないという特長があります。
TYPE2	純正律	3度5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行なわれます。
TYPE3	ピタゴラス音律	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりも、メロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
TYPE4	中全音律	3度のうなりをなくした調律法で、純正律の特定の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
TYPE5	ヴェルクマイスター第 III 法	調号の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調号が増えるにしたがって、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した「調性の性格」を反映させることのできる調律法です。
TYPE6	キルンベルガー第 III 法	

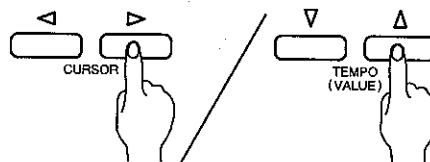
各音律の調の設定は画面中のKEYの位置でC～Bの間で設定します。

ステップ3　SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

11. オール・GM・アサインの設定

下図の斜線の部分の音色ボタンを、A、B、Cの音色ボタンと同じように128音色のうち好きな音色をメモリーできるようにする機能です。

ステップ1, 3　ステップ2　ステップ1, 2

ステップ1　SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
11 ALL GM ASSIGNを選びます。

11 ALL GM ASSIGN
= OFF

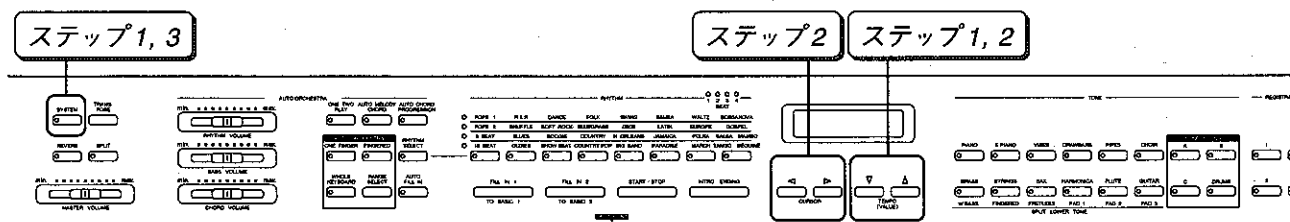
ステップ2　CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

11 ALL GM ASSIGN
= OFF

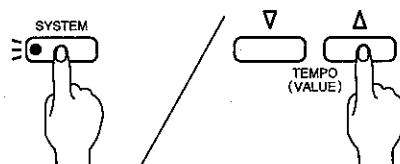
設定値
- ・OFF …… 通常の状態です。
- ・ON …… 11個の音色ボタンに好きな音色を割りあてることができます。

ステップ3　SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

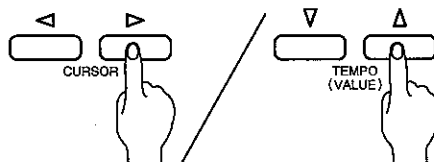
・値を「ON」にした後、元の画面にもどったら、7ページの ステップ3 ～ ステップ4 の要領で11個の音色ボタンに音色を割りあてて下さい。
この音色の割りあての内容は、設定のオン／オフに関係なく電源を切っても消えません。

12. システム・チャンネルの設定

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするMIDIチャンネルを設定します。

ステップ1

SYSTEM（システム）ボタンを押し、システムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
12 SYSTEM CH.を選びます。

12 SYSTEM CH.
= 1

ステップ2

CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

12 SYSTEM CH.
= 1

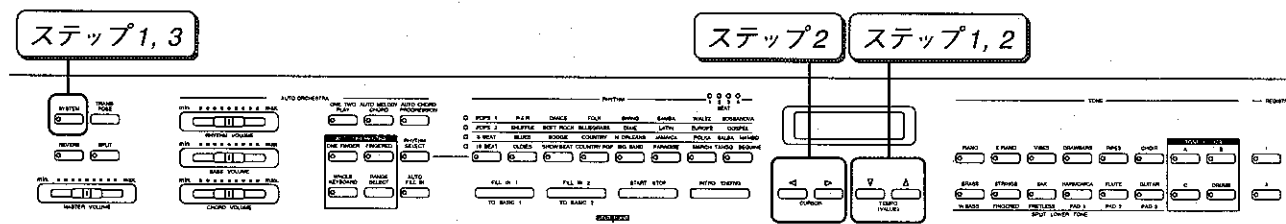
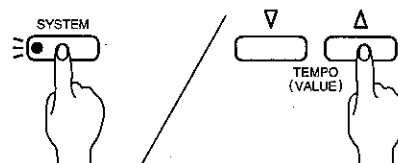
値は1～16（チャンネル）に設定できます。

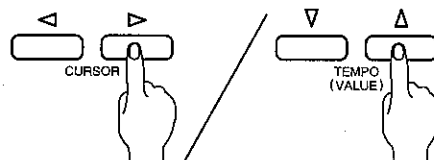
MIDIの接続については59ページを参照して下さい。

ステップ3

SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

13. MIDI クロックの設定

MIDI信号を受けてリズムがスタートするか、しないかの設定をします。

ステップ1　SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
13 MIDI CLOCKを選びます。

13 MIDI　CLOCK
= INT

ステップ2　CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

13 MIDI　CLOCK
= INT

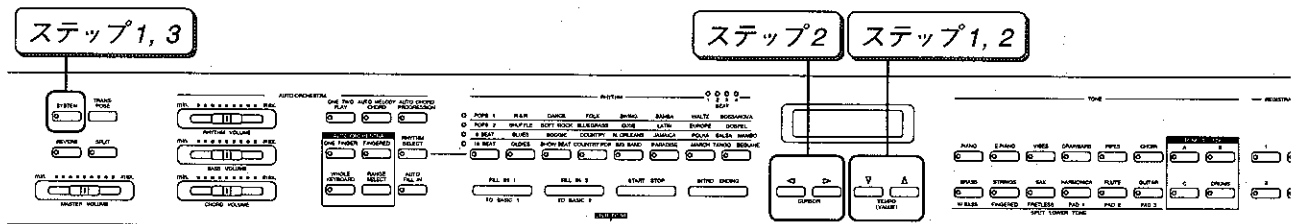
- INT …… 外部の MIDI クロック、スタート信号を受けません。
- EXT …… 外部の MIDI クロック、スタート信号を受けます。

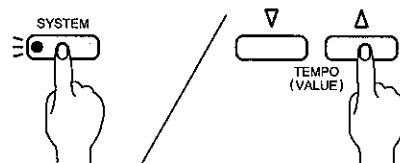
ステップ3　SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

「EXT」に設定した時は次の動作に注意して下さい。

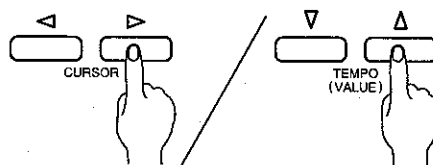
- 本体のパネルスイッチでリズム / 自動伴奏 / シーケンサーをスタートさせることはできません。MIDI INからのクロック、スタート信号によってのみスタートします。
また、このようにスタートさせた後はフィルイン1, 2、スタート / ストップ、イントロ / エンディングボタンで伴奏を止めたりすることができます。
- ソングモード（☞ 50ページ）に入った直後にスタート信号を受けると、シーケンサーが再生されます。
- 録音待機中（☞ 51ページ）にスタート信号を受けると、録音がスタートします。

14. マルチ・ティンバーの設定

MIDI信号の受信状態を設定します。

ステップ1

SYSTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
14 MULTI TIMBERを選びます。

```
14 MULTI TIMBER
 = ON
```

ステップ2

CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

```
14 MULTI TIMBER
 = ON
```

- ON ……1～16 それぞれのチャンネルのMIDI受信信号で別々の音色を鳴らすことができます。
- OFF …… システムで設定されたチャンネル（☞44ページ）のMIDI受信信号でパネルで選ばれている音色を鳴らすことができます。

ステップ3

SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

マルチティンバーON時には、この電子ピアノを16セクションマルチティンバーのGM音源として使用することができます。

マルチティンバーON時の工場出荷時（本体リセット時）の設定

MIDI受けセクション	MIDI受信チャンネル	音　色	リバーブ Hi / Lo
1	1	001 Gr Piano	Hi
2	2	001 Gr Piano	Hi
3	3	001 Gr Piano	Lo
4	4	001 Gr Piano	Hi
5	5	001 Gr Piano	Hi
6	6	001 Gr Piano	Hi
7	7	001 Gr Piano	Hi
8	8	001 Gr Piano	Hi
9	9	001 Gr Piano	Hi
10	10	DR1 STANDARD	Hi
11	11	001 Gr Piano	Hi
12	12	001 Gr Piano	Hi
13	13	001 Gr Piano	Hi
14	14	001 Gr Piano	Hi
15	15	001 Gr Piano	Hi
16	16	001 Gr Piano	Hi

電子ピアノ上で設定できるもの

- 各セクションごとの発音の ON/OFF
  (☞48 ページ)
- リバーブのタイプ（全セクション共通）
  (☞14 ページ)
- リバーブデプス Hi, Lo のレベル設定
  （全セクション共通）(☞38 ページ)
- チューンの設定（全セクション共通）
  (☞41 ページ)
- 音律の設定（全セクション共通）
  (☞42 ページ)

- 各セクションの音色、リバーブのHi / Loの選択等はMIDIプログラムチェンジ情報やMIDIコントロール情報で変更できます。
- リセット動作（☞ 32ページ）を行うと、各セクションはGMリセットされます。

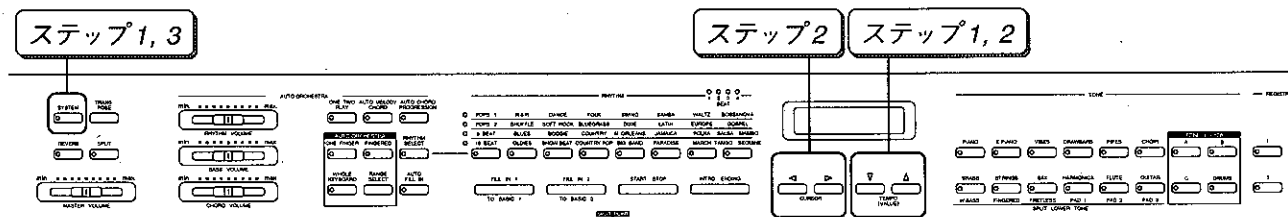
マルチティンバーOFF時の設定

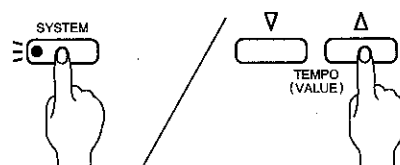
- MIDI受信チャンネル　(☞ 44 ページ)
- リバーブタイプ　(☞ 14 ページ)
- リバーブデプス　(☞ 38 ページ)
- チューン　(☞ 41 ページ)
- 音律の設定　(☞ 42 ページ)

（以上）電子ピアノ本体で設定します。

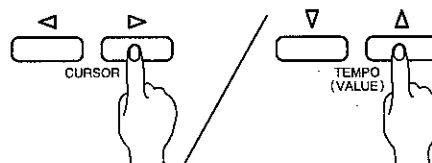
- 発音音色 ………………………………………… 本体で選ばれている音色で発音します。

15. セクション・ミュートの設定

マルチティンバーの設定がオンの時は、MIDI信号の受信時に受信しないMIDIチャンネルを設定します。
マルチティンバーの設定がオフの時は、この設定は無効です。

ステップ1

SYSYTEM（システム）ボタンを押しシステムモードに入ります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して
15 SECTION MUTEを選びます。

```
15 SECTION MUTE
12345678910111213141516
```

ステップ2

CURSOR（カーソル）ボタンでカーソルを移動し、TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを数回押して値を設定します。

```
15 SECTION MUTE
12345678910111213141516
```

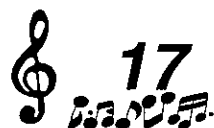
カーソル移動

画面下段の数字が例えば 1←→＊と変化します。
例えば3、8、14の各チャンネルのMIDI信号を受信したくないときは右図のように設定します。

```
15 SECTION MUTE
12*4567*910111213*1516
```

ステップ3

SYSTEM ボタンをもう一度押し、ランプを消します。
システムモードが解除され元の画面にもどります。

・システムモード時は、MIDI信号を受信しても発音しません。

17 演奏を録音する（シーケンサー）

この電子ピアノにはあなたの演奏を録音したり、再生することができるシーケンサー機能があります。先に自動伴奏だけを録音して、それを再生しながら鍵盤の演奏を録音したり、右手パートと左手パートを別々に録音して同時に再生させることができます。一度録音された曲は、電源を切っても内容が消えません。
シーケンサーには最大10曲まで録音でき、それぞれの曲に3トラック用意されています。

SONG 1	
	1 TRACK （トラック）
	2 TRACK
	3 TRACK

各トラックにはそれぞれ違うパートを録音することができます。

SONG 2	
	1 TRACK
	2 TRACK
	3 TRACK

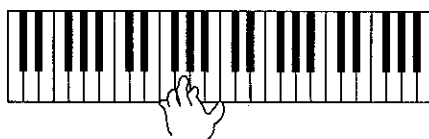
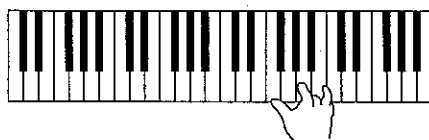
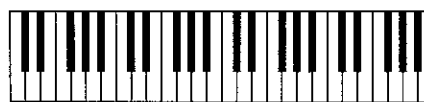
・
・
・
・
・

SONG 10	
	1 TRACK
	2 TRACK
	3 TRACK

・トラック1 …メイン・トラックです。この電子ピアノで演奏した情報をそのまま録音、再生できます。

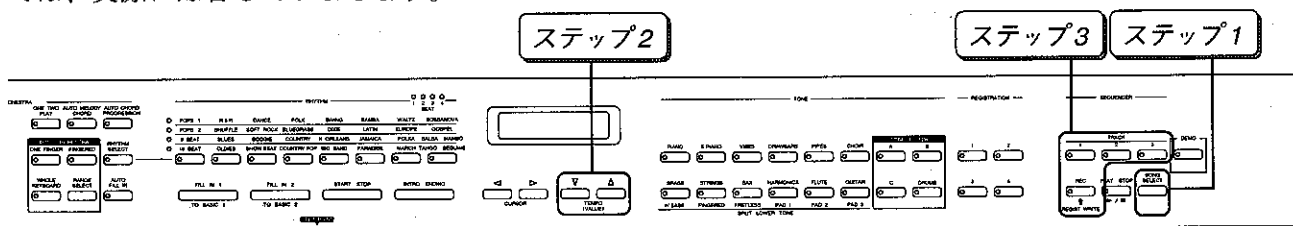
・トラック2
・トラック3
サブ・トラックです。トラック１で録音した演奏を聞きながら、別のパートのメロディー演奏を録音する時に使用します。

たとえば、左手のパートをトラック1に、右手のパートをトラック2に別々に録音して、これを同時に再生することができます。
トラックとは、ちがうパートを別々に録音する場所のことです。

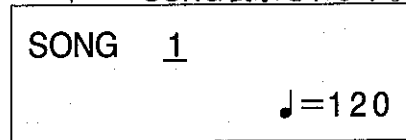
トラック１
自動伴奏の録音

トラック２
メロディーパート
の録音

再生すると

自動伴奏＋メロディー

また、各トラックにちがう音色で録音して、アンサンブル演奏をすることもできます。

トラック１	自動伴奏
トラック２	ピアノ
トラック３	オルガン

では、実際に録音してみましょう。

ステップ1　SONG SELECT（ソングセレクト）ボタンを押して、ソングモードに入ります。

ソングモードでは画面上の上段にSONG表示されます。

SONG　1
♩=120

注意

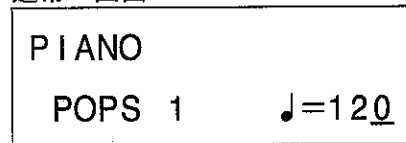
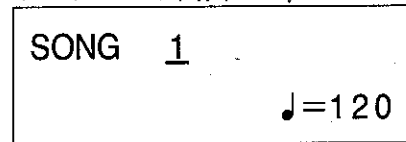
シーケンサー機能を使う時は、ソングモードに入ります。
SONG SELECT（ソングセレクト）ボタンを押すたびに通常モードとソングモードが切りかわります。
またソングモードにした時はMIDI信号（☞ 59ページ）を受信しません。

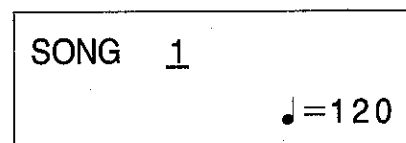
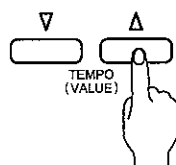
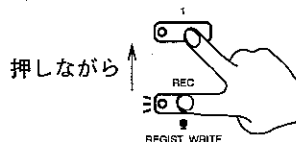
押すたびにモード（画面）が切りかわります。

通常の画面

PIANO
POPS　1　♩=120

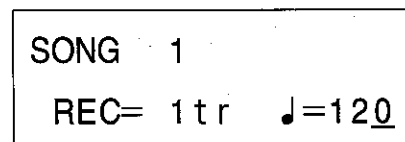
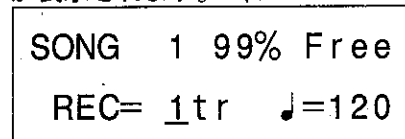
ソングモード画面

SONG　1
♩=120

ステップ2　TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンで録音したい曲番号（1～10）を選びます。

SONG　1
♩=120

ステップ3　REC（レック）ボタンを押しながらTRACK1（トラック1）ボタンを押します。

RECボタンを押している間、右の表示となります。

シーケンサーの残りメモリーが表示されます。

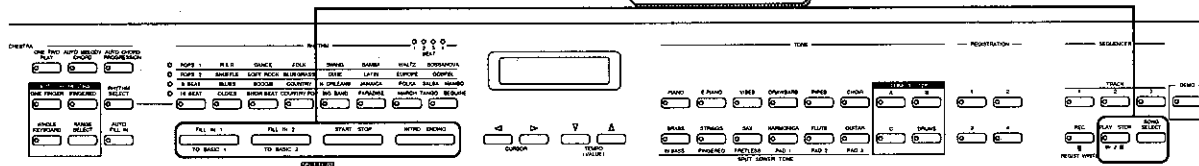
SONG　1 99% Free
REC= 1tr　♩=120

ボタンから指を離すとメトロノームが鳴り、右の表示となります。
TEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンでテンポを変えることができます。

SONG　1
REC= 1tr　♩=120

・メトロノームの音量はリズム・ボリューム（☞ 21ページ）で調節できます。
・ソングモード時は、マルチティンバーの設定（☞ 46ページ）はオンになります。

これで録音の準備ができました。（録音待機状態）
この状態でRECボタンを押すと待機状態が解除されます。

選んだトラックがすでに録音済みだった場合、
右のような表示になります。
このまま録音を始めると前の録音情報が消えてしまいますので注意して下さい。

SONG 1
REC= 1tr♩ ♩=120

ステップ4

録音を開始します。次の3つの方法でスタートします。
・鍵盤を弾く … 鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。（自動伴奏がオフの時）自動伴奏なしの演奏の録音に便利です。
・PLAY / STOP（プレイ / ストップ）ボタンを押す
… 録音がスタートします。演奏の前に数小節の空きを入れたい時などに便利です。
・リズムをスタートさせる
… リズム又は自動伴奏をスタートさせると、同時にリズム / 自動伴奏の録音を開始します。

録音中にリズムをスタートさせることはできません。
録音中、リズム／ベース／コードボリュームスライダーの内容は記録されます。

ステップ5

録音中は画面に現在進行中の小節数が表示されます。

小節数
SONG 1 12
REC= 1tr ♩=120

・録音中に音色、リズム、テンポを変えることができます。
・録音中に音色をDRUMS↔他のボタンという風に変えることはできません。
・リズム、自動伴奏オート・コード・プログレッションはトラック1にのみ録音できます。
・デュアル、スプリット、オート・メロディー・コードでの演奏はトラック1にのみ録音できます。

録音を止める時は PLAY / STOP（プレイ / ストップ）ボタンか、START / STOP（スタート / ストップ）ボタンを押します。

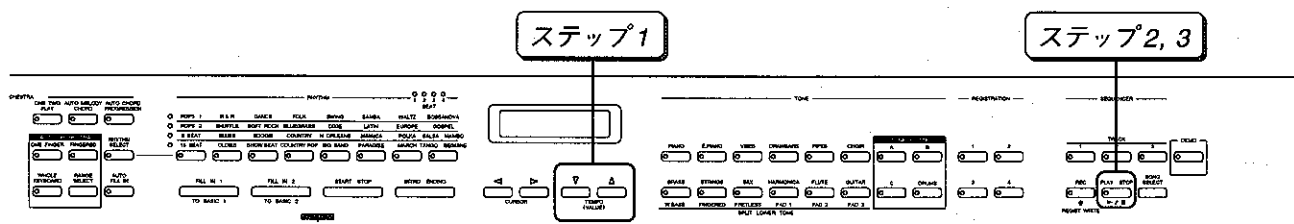
ステップ6

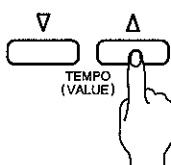
SONG SELECT（ソング・セレクト）ボタンを押すとソングモードが解除され、元の画面にもどります。

PIANO
POPS 1 ♩=120

・録音待機中や、録音中は次のボタン、機能は動作しません。
→オート・コード・プログレッションボタン、A, B, C, DRUMボタンの音色内容の変更、デモ演奏、システムボタン

演奏の再生

録音した演奏を再生します。

ステップ1

ソングモード（ ☞50ページ）で、TEMPO・VALUE(テンポ・バリュー）ボタンを押して再生したい曲を選びます。

SONG 1
♩=120

ステップ2

PLAY / STOP（プレイ / ストップ）ボタンを押すと再生を開始します。

小節数

SONG 1 12
♩=120

画面には現在、進行中の小節数が表示されます。録音時の音色で演奏が再生されます。

ステップ3

PLAY / STOP（プレイ / ストップ）ボタンを押すとボタンのランプが消え、再生が止まります。

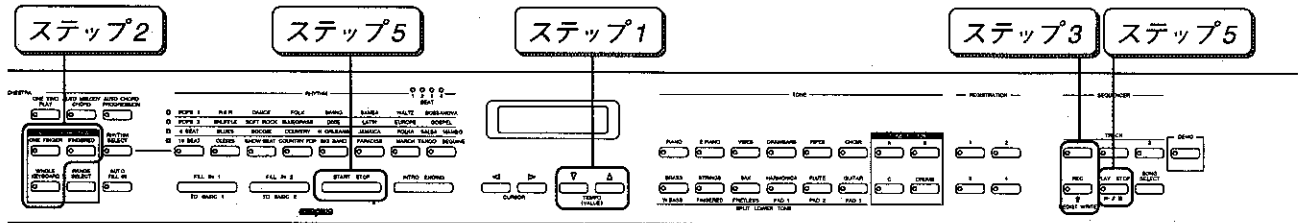
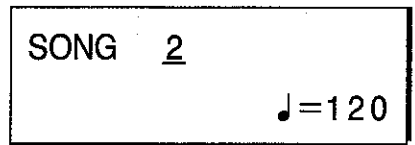
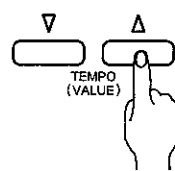
演奏の再生時、自動伴奏の情報はMIDIで出力されます（ ☞ 61ページ）

複数トラックに重ね録音する場合

ここではまず例としてトラック1に自動伴奏を録音し、その後、それを聞きながらトラック2にメロディーを録音します。

ステップ1

ソング・モード（☞ 50ページ）でTEMPO・VALUE(テンポ・バリュー）ボタンを押して曲番号を選びます。

SONG 2
♩=120

ソング2を選びました

ステップ2

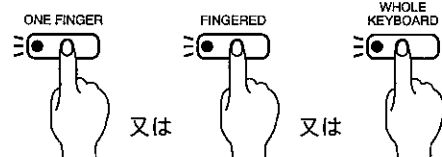
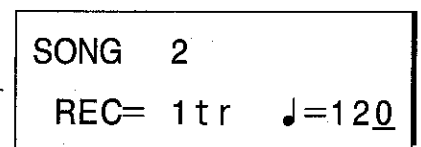
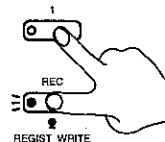
リズムを選び、オート・オーケストラ（自動伴奏）のいずれかボタンを押します。

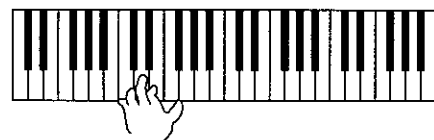
又は

ステップ3

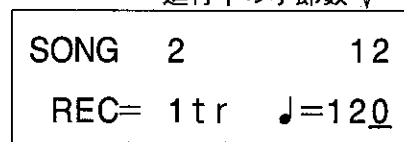
REC（レック）ボタンを押しながらTRACK1ボタンを押します。
（録音待機状態）

押しながら

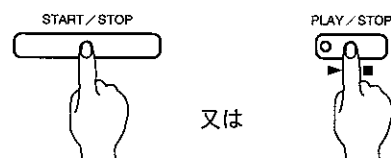
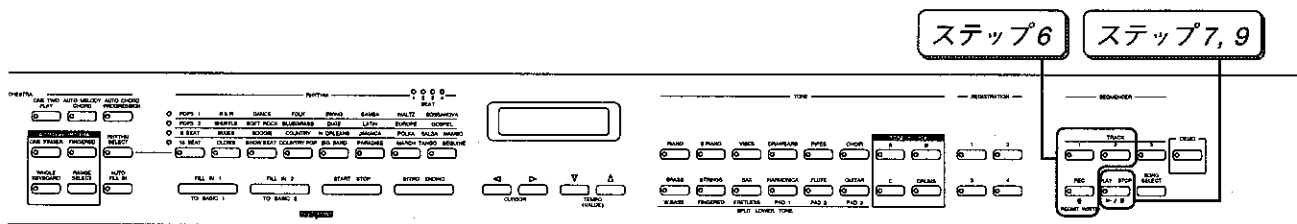
SONG 2
REC= 1tr ♩=120

ステップ4

鍵盤でコードを押さえて自動伴奏をスタートさせます。（☞ 17ページ）
イントロ等よりスタートさせることもできます。（☞ 20ページ）

自動伴奏のスタートと同時に録音がスタートします。

進行中の小節数

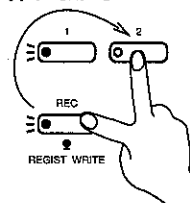
SONG 2 12
REC= 1tr ♩=120

ステップ5

START / STOPボタン、又はPLAY / STOPボタンを押すと自動伴奏と録音が終了します。

又は

PLAY／STOP

ステップ6

次にTRACK1に録音した自動伴奏を聞きながら、TRACK2にメロディーを録音していきます。

REC（レック）ボタンを押しながらTRACK2ボタンを押します。
（録音待機状態）

```
SONG   2
 REC= 2tr   ♩=120
```

ステップ7

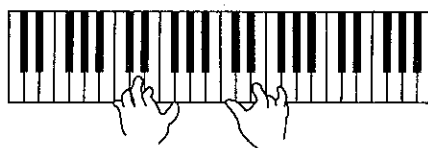
PLAY / STOP（プレイ / ストップ）ボタンを押します。

先に録音した自動伴奏が再生されます。

進行中の小節数

```
SONG   2          12
 REC= 2tr   ♩=120
```

ステップ8

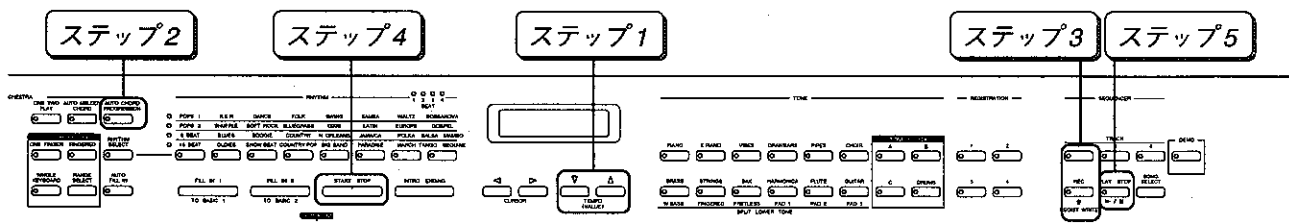
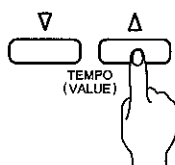
自動伴奏に合わせて演奏します。

ステップ9

演奏が終わったらPLAY / STOPボタンを押して録音を終了します。

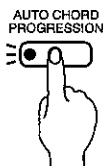
SONG SELECTボタンを押すとソングモードが解除され、通常の状態にもどります。

同様にTRACK3にも重ね録音ができます。

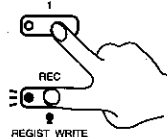
自動コード進行を録音する場合

自動コード進行も、自動伴奏と同じようにトラック1に録音していきます。

ステップ1　ソングモード（☞ 50ページ）でTEMPO・VALUE（テンポ・バリュー）ボタンを押して曲番号を選びます。

SONG　3
♩=120

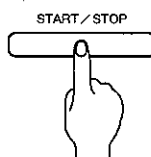
この場合ソング3を選んでいます

ステップ2　リズムを選び、AUTO CHORD PROGRESSION（オート・コード・プログレッション）ボタンを押します。

SONG　3
PRG01　C　♩=122

この場合 POPS 1を選んでいます

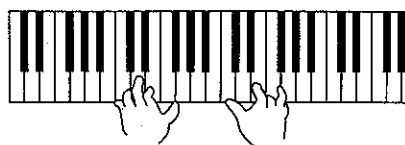
ステップ3　REC（レック）ボタンを押しながらTRACK1ボタンを押します。（録音待機状態）

SONG　3
REC=　1tr　♩=122

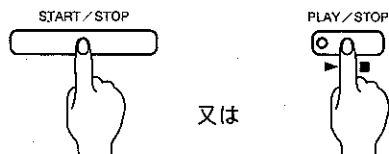
ステップ4　START / STOPボタンを押します。

自動コード進行がスタートすると同時に録音がスタートします。

進行中の小節数

SONG　3　12
REC=　1tr　♩=122

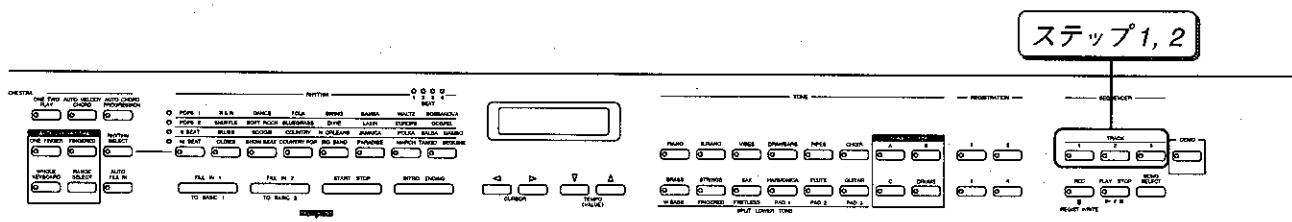
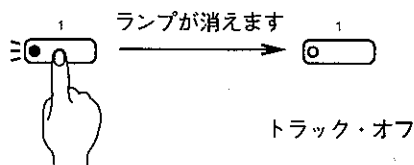
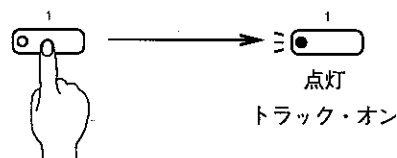
注意
この場合、画面上の小節数は付属のコード進行表の小節数とは異なります。

ステップ5　伴奏に合わせて演奏します。

ステップ6　START / STOPボタン又はPLAY / STOPボタンを押すと伴奏と録音が終了します。

又は

SONG SELECTボタンを押すとソングモードが解除され通常の状態にもどります。

・ 53 ～ 54ページの要領で、トラック 2, 3 にメロディーを重ね録音することができます。

トラックボタンのオン／オフ

録音済みのトラックについて、重ね録音、又は再生時に、希望のトラックだけを再生できなくすることができます。

ステップ1　目的のTRACKボタンを押します。
TRACKボタンのランプが消えて、
このトラックは再生されません。

ステップ2　再び再生させたい時はもう一度
TRACKボタンを押しランプを点灯
させます。

- 自動伴奏のデータが入っているトラック1を再度オンさせる場合、その次のコード変更から自動伴奏が再開されます。
- トラックに録音されたパネル上の各ボタンのオン / オフ（レジストレーション）は、そのトラックをオフにしても再生されます。
  トラックのすべてのデータを消したい時は、トラックの内容を消去して下さい。
  （☞ 次ページ）
- 録音待機状態又は録音中に、トラックボタンをオン / オフすることはできません。

トラックの内容を消去する

録音済みのトラックの録音内容を消去します。

ステップ1 ソングモード（☞ 50ページ）でREC（レック）ボタンを押しながらPLAY / STOP（プレイ / ストップ）ボタンを押します。

ステップ2 CURCOR（カーソル）ボタンでカーソルを動かし、TEMPO · VALUE（テンポ · バリュー）ボタンで目的のソング番号とトラック番号を設定します。

SONG= 1 ～ 10　TRACK= (Tr)

- CANCEL … 消去しません
- 1 … トラック 1
- 2 … トラック 2
- 3 … トラック 3
- ALL … すべてのトラック

例1 SONG1のトラック1のみ消去したい場合

TRACK DELETE
SONG=1 Tr=1

例2 SONG2のすべてのトラックを消去したい場合

TRACK DELETE
SONG=2 Tr=ALL

例3 消去を中止する場合

TRACK DELETE
SONG=1 Tr=CANCEL

ステップ3 設定が終わったらPLAY / STOPボタンを押します。

設定されたソングのトラックが消去されます。

設定値が Tr = CANCEL となっているとトラックは消去されません。

- ステップ2の時に REC ボタンを押しても消去が中止され、ひとつ前の画面にもどります。
- 消去トラックの設定中はデモボタンを押してもデモ演奏されません。

シーケンサー機能についての注意点

・リズム / 自動伴奏のみを録音し、それを再生する場合
録音を止めた直前の拍まで再生します。

・録音中や録音前にシーケンサーのメモリーがいっぱいになると、画面にエラーメッセージが出て録音が終了することがあります。いらないソングやトラックを消去して再び録音を開始して下さい。

・オート・コード・プログレッション、ワン・ツー・プレイを使って録音する場合は、ソングモードにて録音待機状態になる前にパネルを設定してから録音して下さい。

・レジストレーション・メモリーボタンをオンにしたまま録音した場合、再生時にはレジストレーション・メモリーボタンのランプは消えますが、レジストレーション自体は再生されます。

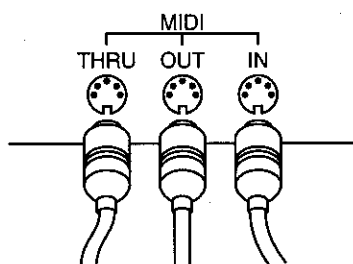
・リズム / 自動伴奏中にソングセレクトボタンを押し、ソングモードに入ったり、ソングモードから通常の状態にもどったりすると、リズム / 自動伴奏が止まります。

・ダンパーペダルを使い、スプリット（ ☞11ページ）で録音した曲を再生する場合、ダンパー効果についてはシステムモードのダンパーペダルの設定にしたがいます。

18 MIDIを使ってみる

MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interface の頭文字をとった略称で、電子ピアノ、シンセサイザー、シーケンサーなどの電子楽器どうしを専用ケーブルで接続して、音楽情報をやりとりするための国際規格です。MIDIを使うと、1台の楽器を演奏して複数の楽器を鳴らしたり、シーケンサーを使用して、自動演奏をさせたり、さまざまなことができます。

1. MIDIの接続

MIDIを装備した電子楽器は、MIDI IN（イン）、MIDI OUT（アウト）、MIDI THRU（スルー）の端子を持っています（MIDI THRUの無い楽器もあります）。これらの端子に、専用のMIDIケーブルのプラグを差し込んで、楽器どうしを接続します。

・MIDI OUT ……… 音楽情報が電気信号に変えられて、この端子から出てきます。接続する楽器のMIDI IN端子につなぎます。
・MIDI IN ……… 他の楽器からの音楽情報の入り口です。他の楽器のMIDI OUTまたはMIDI THRU端子につなぎます。
・MIDI THRU ……… MIDI INから入ってきた情報を、そのままこの端子から出します。3台またはそれ以上の楽器を接続するときに使います。

2. MIDIでできる機能

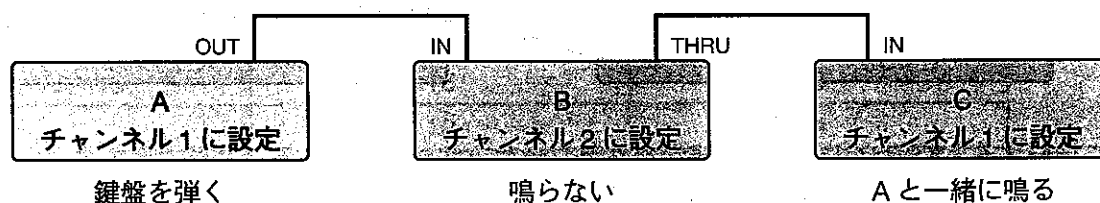
MIDIで送ったり、受け取ったりする情報の種類は楽器によって異なります。この電子ピアノには、次のMIDI機能があります。

・送・受信チャンネルの設定
・鍵盤情報（どの鍵盤が押されたか）の送・受信
・音色切り替えの送・受信
・レフト・ペダル、ダンパー・ペダルのオン / オフ情報の送・受信
・ローカル・コントロール（鍵盤を押しても音が出ず、MIDI信号を受信したときのみ発音する）の設定
・マルチ・ティンバー・オン / オフの設定
・自動伴奏情報の送信
・マルチ・ティンバー・オン時の各受信チャンネル別のオン / オフ

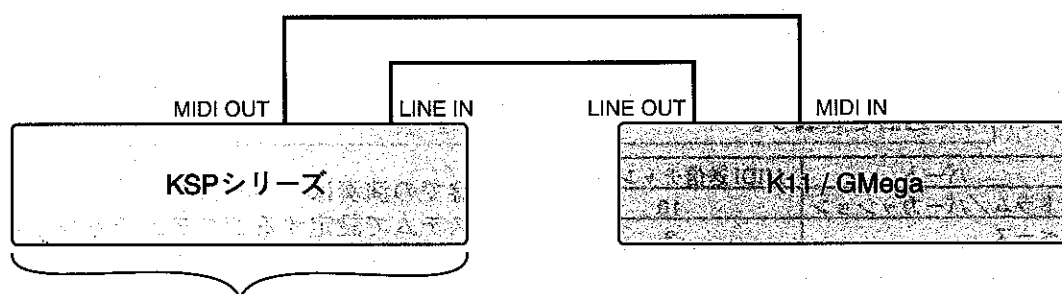
・この電子ピアノは国際統一規格 GM システムに対応していますので、16 セクションマルチティンバーのGM 音源として使用することができます。
・本機でシステムの設定中（ ☞ 33 ページ）又はソングモード時（ ☞ 50 ページ）はMIDI 情報を受信しても発音しません。

・ここで用いられるMIDI 規格関連用語について詳しくお知りになりたい方は、音楽関連出版社から刊行されている書物を参考にして下さい。

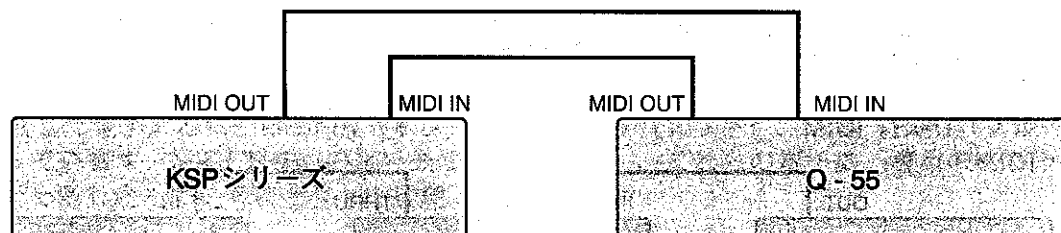
3. MIDIチャンネルとは？

MIDIで複数の楽器を同時に演奏するために、チャンネルというものがあり、送信（信号を送る側）楽器と、受信（信号を受け取る側）楽器のお互いのチャンネルが一致していないと、情報のやりとりができません。たとえば、3台の楽器を接続して、それぞれの楽器のチャンネルを下の図のように接続した場合、楽器Aの鍵盤を弾くと、楽器Cも同時に鳴りますが、チャンネルの違う楽器Bは鳴りません。

この電子ピアノでは、1から16までのチャンネルを設定できます。

4. 実際の接続例

●他のMIDI対応楽器とのアンサンブル
（カワイ・デジタル・シンセサイザー・K11 / 音源モジュール GMegaとの接続例）

図のように接続すると、KSPシリーズで弾いた情報（どの鍵盤を弾いたか）が、そのままシンセサイザー（この場合はK11）に送られます。さらに、シンセサイザー / 音源モジュールのLINE OUTとKSPシリーズのLINE INを接続することにより、KSPシリーズの音にシンセサイザー / 音源モジュールの音を重ねて鳴らせます。音色は別々に設定できますので、KSPシリーズのピアノ音にシンセサイザー / 音源モジュールのストリングス音を重ねて、厚みのある音にするなど、工夫しだいで、いろいろなアンサンブルを楽しめます。

K11, GMegaの取り扱いについてはそれぞれの取り扱い説明書をお読みください。

・外部シーケンサーとの接続
（カワイ・シーケンサーQ-55との接続例）

図のように接続するとKSPシリーズでの演奏を外部シーケンサーに記録することができます。カワイ・シーケンサーQ-55やQ-80、Q-80EXのようにフロッピーディスクが使えるシーケンサーであれば、記録した演奏をディスクに保存することができます。また、Q-55やQ-80EXのようにスタンダードMIDIファイル対応のシーケンサーであれば、市販されているソングディスク（GM音源用、スタンダードMIDIファイル形式）の曲が再生できます。

シーケンサーの取り扱いについてはシーケンサーの取り扱い説明書をお読みください。
KSP30 でフォーマットしたディスクを使って、Q-55 や PV35 （電子ピアノ）で録音を行うと、ディスクのデータがこわれることがありますのでご注意ください。

自動伴奏の MIDI について

この電子ピアノでリズム演奏、自動伴奏させると、伴奏のMIDI 情報が各パート別に下の表のMIDIチャンネルで同時に送信されます。

	パート	MIDI送信チャンネル
自動伴奏	ドラム／パーカッション	10
	ベース	3
	コード1	4
	コード2	5
	コード3	7

鍵盤での演奏は
システムで設定するシステムチャンネル
（☞ 44 ページ）で送信されます。

MIDI 受信側の機器がマルチティンバー対応 GM 音源であればその音源で本機の自動伴奏がそのまま再現できます。
・自動伴奏のパート別ボリュームスライダーを動かすことにより、上の表のMIDI 送信チャンネルでMIDI ボリューム情報が送信されます。
・Q-80(EX) に自動伴奏を録音する場合、Q-80(EX) のクロックを「INT 」に設定してください。

エクスクルーシブメッセージについて

・この電子ピアノでは、システムチャンネル（☞ 44 ページ）でエクスクルーシブメッセージの送受信を行ないます。

プログラム・チェンジの送信

音色ボタンを押すことによりプログラム・チェンジ情報をMIDI送信します。

音色ボタン	プログラムチェンジナンバー	
	マルチティンバー ON 時	マルチティンバー OFF 時
PIANO	0	0
E.PIANO	5	1
VIBES	11	2
DRAWBARS	16	3
PIPES	19	4
CHOIR	52	5
BRASS	61	6
STRINGS	49	7
SAX	65	8
HARMONICA	22	9
FLUTE	73	10
GUITAR	24	11
TONE A	注 1	12
TONE B		13
TONE C		14
DRUMS	注 2	15

注1.　それぞれのボタンに割り当てられているGM音色に対応
（☞ コード進行表ウラ表紙）

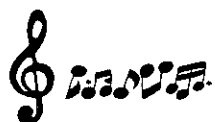
注2.　DRUMSボタンに割り当てられているドラムキットに対応
（☞ コード進行表43ページ、コード進行表ウラ表紙）

マルチティンバーがオンの時、かつオールGMアサインがオンの時に音色ボタンを押すとそれぞれのボタンに割り当てられているGM音色に対応したプログラムチェンジが送信されます。

工場出荷時の設定

選ばれる音色ボタン	PIANO
音色ボタン内容A	058 Trombone
音色ボタン内容B	106 Banjo
音色ボタン内容C	022 Accordion
音色ボタン内容DRUMS	DR1 STANDARD
リバーブ・タイプ	LARGE ROOM
トランスポーズ	±0
選ばれるリズムパターン	POPS 1
レンジ・セレクト	NORMAL

システム設定

1 タッチカーブ	NORMAL
2 レフト・ペダル	SOFT
3 ダンパー・ペダル	LOWER & UPPER
4 デュアル / スプリット バランス	100 : 100
5 スプリットポイント	G # 3
6 リバーブ・デプス	Hi = 7 Lo = 1
7 パート別 リバーブ・デプス	D, C, K = Hi B = Lo
8 ローカル・コントロール	ON
9 システム・チューニング	± 0
10 音律	TYPE = 1, KEY = C
11 オール・ GM・アサイン	OFF
12 システム・チャンネル	1
13 MIDI クロック	INT
14 マルチ・ティンバー	ON
15 セクション・ミュート	全チャンネル =受信

エラーメッセージ

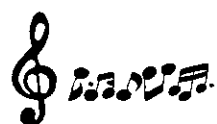
不適当な操作を行おうとした場合や、データが操作通りに正しく処理されない場合には、画面上にエラーメッセージが表示されます。

```
TRACK DELETE
no data !
```

……… シーケンサーにデータがない状態でトラックデリートしようとしています。

```

Memory full!
```

……… 録音データの容量がいっぱいでもうこれ以上録音できません。
（トラックやソングの内容を消去して下さい
☞ 57ページ）

故障かな？と思う前に

症　状	原　因	対　処
音が出ない、小さい。	ボリュームがmin.に設定されている。	マスター・ボリュームや、リズム、コード、ベースの各ボリュームを適当にセットしてください。
	ヘッドフォンが差し込まれている。	スピーカーから音を出すときはヘッドフォンを抜いてください。
	ボリュームがmin.に設定されているレジストレーションを呼びだした。	ボリュームを動かすと、設定されているボリュームの値が解除されます。
	ローカル・コントロールがオフ、アッパー・オフに設定されている。	ローカル・コントロールをオンに設定してください。（☞ 40 ページ）
リズム / 自動伴奏がスタートしない。	MIDI クロックがEXT に設定されている。	MIDIクロックの設定をINTにして下さい。（☞ 45 ページ）
デュアル・モードやスプリット・モードでひとつの音色しか鳴らない。	DUAL / SPLIT BALANCE（デュアル / スプリット・バランス）の設定値が小さい。	DUAL / SPLIT BALANCE（デュアル / スプリット・バランス）の設定値を大きくして下さい。
SYSTEM, SONGモードに入ることができない。	他のモードになっている。	現在のモードを終了してから、各モードに入ってください。
MIDI信号を受信しても発音しない。	送信側と受信側の MIDI チャンネルが一致していない。	送信側と受信側を同じ MIDI チャンネルに設定してください。
	セクション別ミュートの設定がまちがっている。	セクション別ミュート（☞ 48 ページ）を設定しなおしてください。
	システムモード、ソングモードなどになっている。	モードをぬけてください。

主な仕様

	KSP20	KSP5
鍵盤数	88鍵	76鍵
発音数	最大 32 音	
音色ボタン（16 ボタン 128音色 7ドラムキット）	ピアノ、エレクトリックピアノ、ビブラフォン、ドローバーオルガン、パイプオルガン、クワイヤー、ブラス、ストリングス、サックス、ハーモニカ、フルート、ギター、トーンA、トーンB、トーンC、ドラムス ロワーのみ ウッドベース、フィンガードベース、フレットレスベース、パッド1、パッド2、パッド3	
リズム（64リズム）	ポップス1×2、ポップス2×2、8ビート×2、16ビート×2、ロックンロール×2、シャッフル×2、ブルース×2、オールディーズ×2、ダンス×2、ソフトロック×2、ブギー×2、ショービート×2、フォーク×2、ブルーグラス×2、カントリー×2、カントリーポップ×2、スウィング×2、デキシーランド×2、ニューオリンズ×2、ビックバンド×2、サンバ×2、ラテン×2、ジャマイカ×2、パラダイス×2、ワルツ×2、ヨーロッパワルツ×2、ポルカ×2、マーチ×2、ボサノバ×2、ゴスペル×2、サルサ、マンボ、タンゴ、ビギン	
リバーブタイプ	スモールルーム、ラージルーム、ホール、チャーチ、コズミック、ディレイ	
シーケンサー	録音／再生（10曲×3トラック）、デリート　（記憶音数／約20,000音）	
ボリューム	マスターボリューム、リズムボリューム、ベースボリューム、コードボリューム	
その他機能	オート・オーケストラ、オート・メロディー・コード、オート・コード・プログレッション、デュアル、スプリット、システム設定、トランスポーズ、ワン・ツー・プレイ、オート・フィル・イン、レジストレーション・メモリー	
ペダル	レフト・ペダル（ペダル・アサイン機能により、ソフト、スタート・ストップ、イントロ・エンディング、フィルイン1～2の割当てが可能）、ダンパー・ペダル（アッパー＆ロワー、ロワー、アッパー）	
外部端子	ヘッドフォン（×2…KSP20）、MIDI（IN、OUT、THRU）、LINE IN（L、R）、LINE OUT（L、R）	
出力	40W ×2	20W ×2
スピーカー	（23cm × 16cm）×2、5cm ×2	12cm ×2、5.5cm ×2
定格電圧	AC100V、50 / 60Hz	
消費電力	70W	50W
仕上げ	シルキーローズ	ブライトコスモブラック
寸法（W×D×H）	140 × 56 × 85 (cm)（スタンド組立時）	121 × 46 × 81 (cm)（スタンド組立時）
重量	65.5kg（スタンド組立時）	46kg（スタンド組立時）
附属品	取扱説明書（基礎編）、取扱説明書（応用編）、コード進行表	
別売オプション	椅子、ヘッドフォン	

・製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索　引

[KAWAI DIGITAL PIANO]

Date:Jan 1994
Version:1.0

Model KSP5 / KSP20 MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション....		送信	受信	備考
ベーシック	電源ON時	1, 3, 4, 5, 7, 10 ★1	1～16	★3 マルチティンバー ON 時 各セクションのは 1～16ch 固定
チャンネル	設定可能	1～16 ★2	1～16 ★3	
モード	電源ON時	3	3	
	メッセージ	×	×	
	代用	**********	×	
ノート		16-115 (KSP5) / 9-120 (KSP20)	0～127	
ナンバー	音域	**********	0～127	
ベロシティー	ノート・オン	○9nH V=1～127	○	
	ノート・オフ	× 9nH V=0	×	
アフター	キー別	×	×	
タッチ	チャンネル別	×	○	
ピッチ・ベンダー		○ ★4	○	
コントロール チェンジ	1	○ ★4	○	モジュレーション
	6	×	○	データエントリー
	7	○	○	ボリューム
	10	○ ★4	○	パンポット
	11	○ ★4	○	エクスプレッション
	64	○	○	ホールド1(サスティン)
	67	○	○	ソフトペダル
	69	×	○	ホールド2(サスティン)
	91	×	○(LO/HI)	エフェクト
	100, 101	×	○	RPN, LSB, MSB
	120	×	○	オールサウンドoff
	121	×	○	リセット・オールコントローラーズ
プログラム		○ (0～127)	○ (0～127) ★5	★5 10chは 0~6, 8, 16, 24, 25, 33, 40, 48のみ受信可
チェンジ	設定可能範囲	**********	0～127	
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	：ソングポジション	×	×	
	：ソングセレクト	×	×	
	：チェーン	×	×	
リアル	：クロック	○	○	
タイム	：コマンド	○	○	
その他	：ローカルON / OFF	×	○ (システム ch のみ受信可)	
	：オール・ノート・オフ	×	○	
	：アクティブセンシング	○	○	
	：リセット	×	×	
備考		★1 {1＝キーボード、3＝ベース、4＝コード1、5＝コード2、7＝コード3、10＝ドラム} ★2 {キーボードパートのみ} ★4 {自動伴奏時のみ送信}		

モード1： オムニ・オン、ポリ　モード2： オムニ・オン、モノ　○：あり

モード3： オムニ・オフ、ポリ　モード4： オムニ・オフ、モノ　×：なし